

千葉開府900年に向けた ロードマップ

2019年3月

千葉市



私たちが暮らす「千葉市」は、房総半島の中央に位置し、温暖な気候のもと、東京湾や印旛沼につながる河川が刻む肥沃な土地に、豊かな緑と水辺のある自然環境に恵まれたまちです。

この地勢を背景に、奈良時代には、下総国千葉郡に属する千葉郷をはじめとするいくつかの郷が置かれ、相模から海を渡って房総半島に入り東北地方に抜ける古代東海道の経由地にもなっていました。

平安時代末期の1126（大治元）年には、桓武平氏の末裔 千葉常重が、現在の中央区亥鼻付近に館を置いたことにより、本市の都市としての礎が築かれました。常重の子 常胤は、源頼朝を援けて鎌倉幕府の設立に貢献し、有力な御家人となり、全国に領地を広げ、以降300年余りの間、千葉の地は一族の本拠地として、名字の地となりました。その「千葉」は、現在まで町や市の名称として継承され、さらに千葉市の市章は千葉氏の家紋に「千葉」の「千」を配したものとなっています。

しかし、戦後の日本の高度経済成長期においては、時に地域の歴史や伝統・文化の継承を置き去りにして物質的な豊かさを実現してきたように、首都圏に位置する本市もまた東京のベッドタウンとして、「東京」志向を基軸に急激な人口増加の道を歩んできました。

そして現在、日本は人口減少の局面に入り、本市でも近い将来に人口減少社会を迎えることが見込まれています。成熟の時代と言われる今、均質的な社会において自らの居場所や拠り所を確認することが困難になり、人々は「量」よりも「質」を重視し、自らが住まい、働き、学び、訪れる場所においても他の地域とは異なる魅力や特別な価値が尊重されるようになっていきます。

そのような中、本市では、2016（平成28）年4月に都市アイデンティティ戦略プランを策定し、本市固有の4つの地域資源（「加曾利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」）を活用して、都市としてのアイデンティティを確立することを目指し取り組んでおりますが、この度策定するロードマップは、2026年の千葉開府900年に向けて、「千葉氏」という本市の歴史において欠かすことのできない坂東武士団に、地域の皆様とともに今一度スポットを当て、郷土の歴史を学び、その価値観を着実に次世代へつないでいくためのものです。

今後も、本ロードマップに基づき、市民や団体、企業の皆様と連携しながら、「千葉市らしさ」の確立に向けて様々な事業を推進してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



平成31年3月

千葉市長 熊谷 俊人

1. 計画の目的・位置付け

- (1) 計画策定の背景と目的 2
- (2) 計画の位置付け 4

2. 計画期間・進捗管理

- (1) 計画期間 6
- (2) 進捗管理 6

3. 推進体制

- (1) 全庁的な取組み 8
- (2) 「公」と「民」による実施体制 9

4. 現状・課題

- (1) 郷土の歴史の中の「千葉氏」 11
- (2) これまでの取組み 14
- (3) 現状と課題 17

5. 目標

- (1) 成果指標 30
- (2) 施策の推進度を測る指標 30

6. 具体的な取組み

- (1) 方向性1 魅力あるコンテンツの提供 33
- (2) 方向性2 親しみ楽しむ機会づくり 36
- (3) 方向性3 「千葉氏」の見える化の推進 42
- (4) 方向性4 「千葉市らしさ」の醸成及びプロモーション 45

～新たな展開を目指して 47

資料編 48

1.計画の目的・位置付け

(1)計画策定の背景と目的

本市の人口は、2020年をピークに減少に転じる見込みとなるなど、本市を取り巻く状況は今後一層厳しいものとなることが懸念されています。こうした中、本市が活力を維持し持続的に発展し続けるために、本市固有の歴史やルーツに基づく「加曾利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」の4つの地域資源を起点・基準として活用し千葉市らしさを確立することを目指して2016（平成28）年4月に「都市アイデンティティ戦略プラン」（以下「プラン」と言います。）を策定し、取組みを推進しているところです。

これらの地域資源のうち「千葉氏」については、1126（大治元）年に千葉常重がつねしげ亥鼻の地に本拠を移したことにより本市の都市としての歴史が始まったと言われており、プランの目標年次ともなっている2026年には、ちょうど千葉開府900年という大きな節目を迎えます。

千葉氏のPR活動については、プランを策定した2016年が千葉開府890年であったことから、これを旗印として、まずは市民にあまり知られていなかった千葉氏の歴史や中世の文化に対する認知度を高めることに重点をおいて、戦略的な取組みを展開してきました。その結果、千葉氏の認知度は、市民へのアンケート調査においても、もともと一定の認知度があった他の3つの地域資源と同程度の水準に達するとともに、市民団体などとの連携により、千葉氏に係る具体的な取組みが数多く生まれ、プランの目指す「千葉市らしい」まちづくりへの機運が芽生え始めてきたところです。

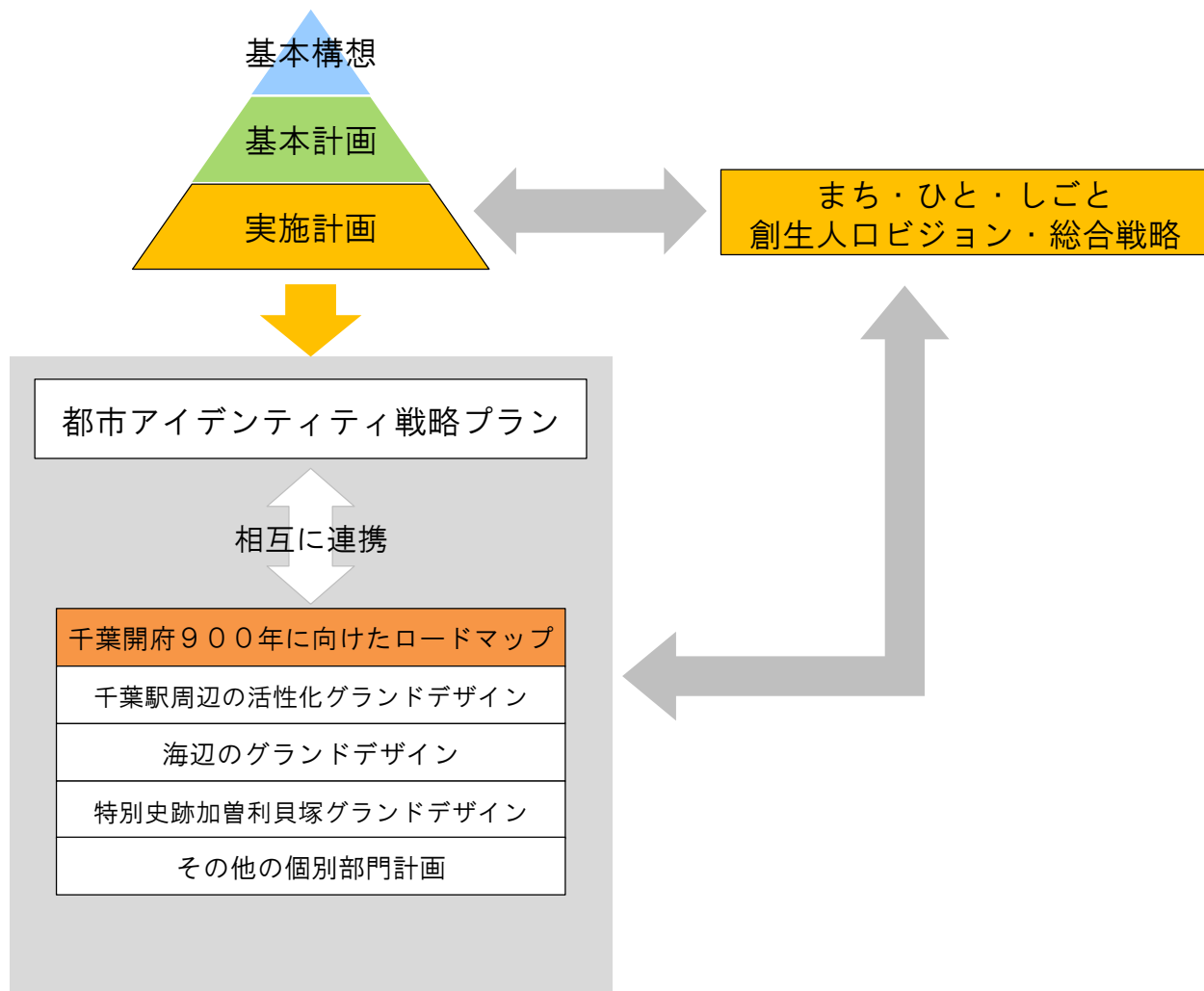
こうした状況の中で、PR活動は来年度からプランにおけるステージ2「継承期」に入ります。今後は、これまでの取組みを力強く継承するとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや2021年の市制100周年などを契機として、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが多彩な主体により進められる社会状態を目指して、2026年を見据えた中期的なロードマップをしっかりと描き、更なる取組みを進める必要があります。

特に、本市の都市アイデンティティを確立するためには、PR（パブリック・リレーションズ）の本旨でもある、本市に関わりのある全ての主体の戦略的なコミュニケーションの実現に向けて、市以外の企業や団体などの積極的かつ自主的な取組みを促進することが重要です。そこで、この度策定するロードマップは、「公」である市と共に歩むパートナーである「民」の取組みも明確に位置づけることとします。

このロードマップは、千葉氏のPR戦略について、これまでの取組みをより一層充実させるとともに、「民」を「連携」や「協働」の客体ではなく、「公」と共に実施主体として位置づける新しいまちづくりのかたちを模索しつつ、2026年のゴールを目指していくものです。

(2)計画の位置付け

本計画は、プランにおける「都市アイデンティティ確立に向けた取組み」の施策体系に基づき、効果及び実現性の高い取組みを具体化したものであり、プランと深く関連する「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」や「海辺のグランドデザイン」、「特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン」その他の個別部門計画と連携を図りながら、千葉氏に係るPR活動を進めることにより、都市アイデンティティの確立を図ります。



2.計画期間・進捗管理

(1) 計画期間

千葉開府900年を迎える2026年度を目標年次とします。

プランにおける施策展開に倣い、2019～2022年度を「継承期」、2023～2026年度を「飛翔期」として、国内外から多くの人を訪れる東京オリンピック・パラリンピックや、市民とともに本市の成り立ちを考える機会となる市制100周年などの節目の年を十分に意識しつつ、様々な取組みを進めます。

(2) 進捗管理

計画の推進にあたっては、成果指標を活用するとともに、プランの中間年である2020年度に実施するアンケート調査やそれぞれの施策の進捗状況の把握によって、評価や課題の検証を行い、更なる取組みに活かしていく、P（Plan＝計画）D（Do＝実施）C（Check＝確認・評価）A（Action＝改善行動）サイクルによる進行管理を行います。

●都市アイデンティティ戦略プランのロードマップ

年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
段階	ステージ1【復活期】 4資源の価値を整理し、認知度・関心度・理解度を高めていく。			ステージ2【継承期】 4資源を皮切りに、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが、多彩な主体により進められる社会状態をつくる。				ステージ3【飛翔期】 積み重ねた「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりの実践を土台に、市内外に共有される「都市アイデンティティ」を確立する。			
節目の年	<ul style="list-style-type: none"> ● 千葉開府890年(2016) ● 千葉常胤生誕900年(2018) ● いなげの浜オープン40年(2016) ● 加曽利貝塚博物館開館50年(2016) 			<ul style="list-style-type: none"> ● 東京オリンピック・パラリンピック(2020) ● 市制施行100周年(2021) ● 政令市移行30周年(2022) ● オオガハス開花70周年(2022) 				<ul style="list-style-type: none"> ● 千葉開府900年(2026) ● いなげの浜オープン50年(2026) 			

3.推進体制

(1) 全庁的な取組み

市民が千葉市に都市アイデンティティを感じられるようになるには、千葉氏を含めた4つの地域資源に対して、人々が単に「知っている」という『認知』から、『興味・関心』を持ち、より深い『理解への探求』を経て、人々の『記憶』に根付いていくまでの一連の過程をたどる必要があります。

これまでのステージ1「復活期」にあたる2016（平成28）年から2018（平成30）年では、まずは市民になじみの薄かった千葉氏に対する認知度の向上を図るため、千葉氏を直接PRするイベントや企画展などに取り組んできた結果、千葉氏に対する一定の認知が得られてきたところです。

今後は、認知から興味・関心を誘起し、さらに理解へとつなげていくこととなりますが、そのためには、如何に適切に市民の関心を捉えるメッセージを伝えられるか、さらに情報探索の要求に如何に応えられるかが重要になります。

そこで、千葉氏を知ってはいるものの歴史や文化に興味を持っていない人々に対して、千葉氏の歴史や当時の文化をエピソード化し、市が実施している様々な分野の施策と適切に関連付けてアプローチしたり、少し興味を持った人々に対してさらなる知的探求に応える情報を提供したりすることで、自らの体験の中で無理なく千葉氏について知り、学び、理解することができるよう全庁的に取組んでいきます。

(2) 「公」と「民」による実施体制

プランでは、推進の視点の1つとして官民の多様な主体による取組みを掲げ、「市民や団体等との対話や交流を深めつつ、ともに『千葉市らしい』取組みを進める」こととしています。今後、プランのステージ2「継承期」・ステージ3「飛翔期」では、これまで活動されてきた市民や団体などの取組みの一層充実を促すとともに、主体の幅を更に広げていくことが重要です。

「都市アイデンティティ」は、市民・団体・企業・学術機関等がみんなで共有し、わがことと捉えて行動することで、まちづくりに反映されるものであることから、市や市の働きかけによる取組みだけではなく、市以外の「民」の自発的な取組みが市内外で展開し、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが体现されている状態を目指さなくてはなりません。

そこで、本計画においては、「公」である市のほかに、「民」である企業や団体等がそれぞれの主体の特色や強みを活かして進める取組みも、具体的にロードマップに位置づけることとし、「公」と「民」が両輪となり、都市アイデンティティの確立へ力強く進んでいきます。

特に、公益社団法人千葉青年会議所（千葉JC）や千葉商工会議所、公益社団法人千葉市観光協会など、長年にわたり地域に根差した活動の実績を持つとともに、民間団体ならではの柔軟な発想や組織の活力を持ち合わせた主体が積極的に活躍することで、多様な年齢層へ効果的にアピールすることを期待します。

4.現状・課題

(1)郷土の歴史の中の「千葉氏」

千葉氏は、桓武天皇の血を引く関東の名族です。

今から893年前、平安時代後期の1126（大治元）年に千葉常重が^{つねしげ}大椎（現在の緑区大椎町）から現在の中央区亥鼻付近に本拠を移したことにより、本市の都市としての歴史が始まったとされています。千葉庄は下総国内では最大級の荘園で、陸海の交通の拠点でもありました。

常重の息子、^{つねたね}千葉常胤は、1180年に石橋山の戦いで平家方に敗れた源頼朝が海を渡って房総に逃れてきた際に、いち早く頼朝の味方につくことを決め、再起をたすけました。頼朝は34歳、常胤63歳の時であり、当時としては異例の高齢から、歴史の表舞台に登場しました。常胤は、頼朝に鎌倉を本拠とするよう進言するなど、鎌倉幕府の創設に重要な役割を果たしており、頼朝は常胤を「父のようにしていた」との記録（吾妻鏡）が残っています。

その後、源平合戦・奥州合戦などにも参戦し、この功績で常胤は下総国・上総国の2か国をはじめ、東北地方、九州地方など全国で20数か所といわれる広大な所領を獲得し、千葉氏は幕府の中でも屈指の御家人となりました。獲得した所領は、その後、常胤の6人の子、^{たねまさ}胤正、^{もろつね}師常、^{たねもり}胤盛、^{たねのぶ}胤信、^{たねみち}胤通、^{たねより}胤頼がそれぞれ分割して受け継ぎ、それぞれの中心となる所領の地名を名乗りました。これを^{ちばりくとう}千葉六党といい、一族は強固に団結していました。

鎌倉幕府成立後も、千葉氏は、元寇の際に幕府の命により奮戦するなど活躍を見せましたが、室町時代にかけて、一族の中で対立を重ね次第に力を失っていきました。15世紀には、戦乱によって荒れた千葉城を離れて、新たに印旛浦（現在の印旛沼）南岸に本佐倉城を築い

て本拠地を移し、千葉氏は12世紀から300年以上に渡り治めた千葉のまちを去ることとなりました。

本拠を移した後は、周辺の戦国大名との争いが激しくなる中、関東地方の大部分を支配下に置いた北条氏に従うことで勢力をつないできましたが、1590（天正18）年に北条氏が豊臣秀吉に降伏したことにより、従っていた千葉氏も他の豪族たちと同じく所領を取り上げられ滅亡、ここに400年以上にわたる千葉氏の歴史は幕を下ろすこととなりました。

しかしながら、全国各地に広がった一族は、それぞれの土地でその系譜を継いでおり、明治維新の功労者江藤新平（旧佐賀藩士）、坂本龍馬も学んだといわれる剣術「北辰一刀流」の創始者千葉周作（旧水戸藩剣術師範）、「武士道」の著者で五千円券の肖像に採用されたことにとべ いなぞうもある新渡戸稲造（旧盛岡藩士）なども千葉氏の子孫だと言われています。

千葉氏は歴史の表舞台からは姿を消しましたが、千葉に暮らす人々の心は常に千葉氏と共
にありました。1889（明治22）年に、市制町村制の実施により5つの町村が合併して
新たな千葉町が誕生した際や、1921（大正10）年1月に市制を施行し千葉市となった
際に、常に「千葉」の名前を冠し続けるとともに、市章にも、千葉氏の家紋の月星紋に千葉
の「千」の字を組み合わせたものを採用しています。

また、1926（大正15）年6月には千葉開府八百年記念祭が開催されていますが、5
年前に宿願であった市制を施行したばかりであったにも関わらず全市を挙げた盛大なもの
になっており、当時の市長の言葉には、まちの発展とともに900年祭、1000年祭の開催
への期待が綴られています。

開府850年となる1976（昭和51）年には千葉開府850年記念事業が年間を通じ
て行われるなど、千葉のまちの歴史にとっての大きな節目にはこれまでも顕彰の営みがなさ
れてきました。

このように、「千葉」の地名は千葉氏の登場以前から使用されているものの、本市の都市の成立・発展に深く関わった一族と同じ名を引き続き自治体の名称として冠し続けていることや、月と星をあしらった市章が定着していること、市内には千葉氏と源頼朝にまつわる伝説（君待橋伝説、お茶ノ水伝説、白旗伝説等）の地が数多く残っていることなどから、まさに千葉氏は本市のルーツであると言えます。

(2)これまでの取組み

本市では、都市戦略として中長期的な視点で一貫した施策展開を図る上で「核」となるような「千葉市らしさ」である都市アイデンティティを確立するため、2014（平成26）年度に「都市アイデンティティ確立に向けた基礎調査」を実施しました。その結果、都市アイデンティティの表現として市内外から評価が高かった「古いものと新しいもの、都会と田舎、様々な融合が魅力を生む街」と「海と緑に囲まれながら、本格的な文化・芸術・スポーツを楽しめる街」を形成する下地となる本市固有の歴史やルーツに根ざした地域資源である「加曽利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」の4つを活用した取組みを都市政策として戦略的に進めていくことを目的としたプランを2016（平成28）年4月に策定し、千葉氏のPR活動に積極的に取り組んできました。

2015（平成27）年度には、プラン策定に先駆けて、漫画で千葉氏の歴史を紹介する「千葉常胤公ものがたり」を製作して小学校6年生の授業における活用をはじめました。以降、4つの地域資源を紹介する未就学児向けの絵本の制作や、市立高校における特別授業、市民向け公開講座や郷土博物館における企画展の開催などにより、年齢層に合わせた施策を展開しています。

千葉開府890年である2016年6月には、「千葉開府の日記念式典」や「千葉開府祭」を開催し、千葉氏と千葉のまちとの関連をPRするとともに、同年8月には千葉の親子三代夏祭りに合わせて、全国の千葉氏ゆかりの自治体の首長が集結する第1回千葉氏サミットを開催し、自治体連携の取組みを開始しました。

2017（平成29）年6月には、鎌倉時代の「食」文化をテーマとした千葉氏フォーラムを開催し、10月に、市民団体が開催する食のイベント「ちーバル」において、中世の

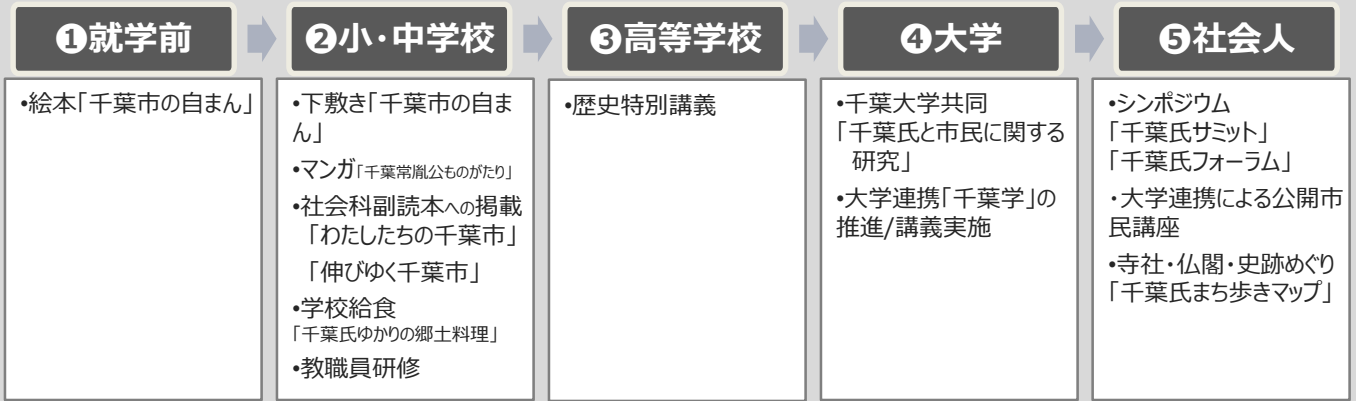
調味料「醬（ひしお）」を用いた料理を提供し、市民に親しみやすい「食」を切り口に、団体や企業とも連携して、幅広い世代へのアピールに取り組んできました。

2018（平成30）年5月には、千葉常胤生誕900年を記念して開催した第2回千葉氏サミットにおいて、相馬野馬追の騎馬とともに首長も騎乗しての騎馬武者行列や記念講演などを実施し、多くの来場者で賑わいました。また、同年4月から翌年3月までは、漫画「北斗の拳」とコラボレーションするなど、歴史に興味・関心がない人々に対しても親しみやすい情報の発信に努めてきました。

●本市の取り組み一覧

年代別アプローチ

千葉市のアイデンティティ醸成につながる郷土教育等の推進



環境整備

看板設置、資料整理、基金創設 など

- ① 郷土博物館の充実
- ② 中央公園・通町公園の連結強化
- ③ 駅前案内看板/中心市街地案内板の整備
千葉駅モレール連絡通路
壁面等装飾掲示
- ④ 電柱広告
- ⑤ 寄附金募集
- ⑥ 職員研修

プロモーション活動

開府式典、映像制作、市民向けガイド制作
ポスター制作 など

- ① 千葉開府の日記念式典
- ② 千葉常胤生誕900年記念行事（騎馬武者行列等）
- ③ 千葉の親子三代夏祭り
- ④ 千葉常胤生誕900年記念ポスター
- ⑤ PR動画
- ⑥ 市公用車へ市章の表記
- ⑦ ラッピングモレールの活用
- ⑧ 「千葉氏」×「北斗の拳」コラボレーション
- ⑨ ちーバルと連携した千葉氏のPR
- ⑩ 図書館で4つの地域資源をテーマとした企画展示
- ⑪ LCCを活用したプロモーション
- ⑫ コラボクールビズポロシャツ

都市間連携

全国的知名度の向上連携
PR活動 など

- ① 千葉氏サミットの開催
- ② 千葉の親子三代祭り「千葉氏コーナー」出展

(3)現状と課題

ア 都市アイデンティティ戦略プラン策定前の状況

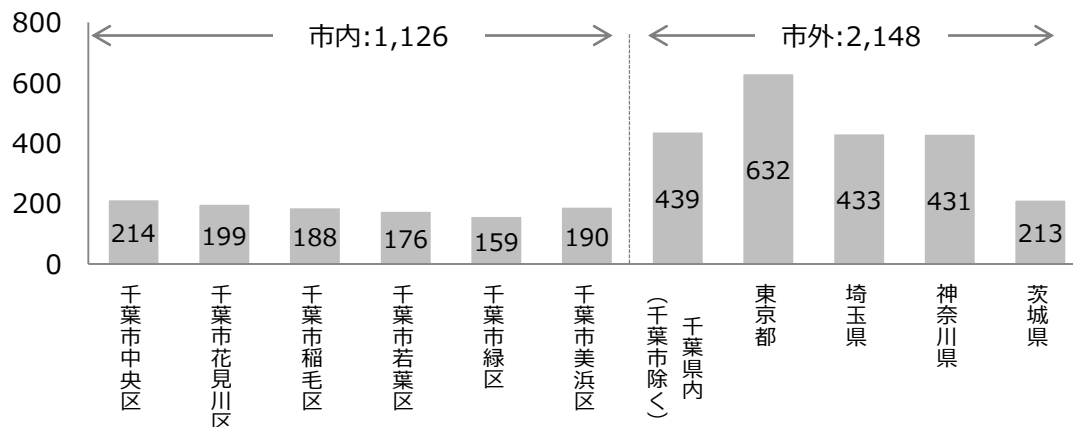
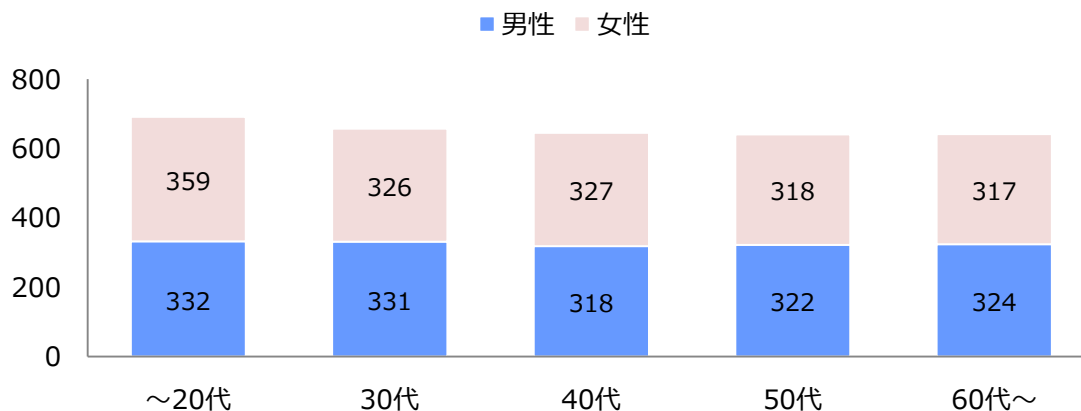
2014（平成26）年に行った都市アイデンティティ確立に向けた基礎調査

【調査概要】WEBアンケート（(株)インテージリサーチ実施）

- ・調査期間 2014（平成26）年10月10日～10月14日
- ・調査対象者 関東（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県）
在住の18歳以上79歳以下の男女個人
- ・サンプル数 3,274サンプル（市内1,126/市外2,148）

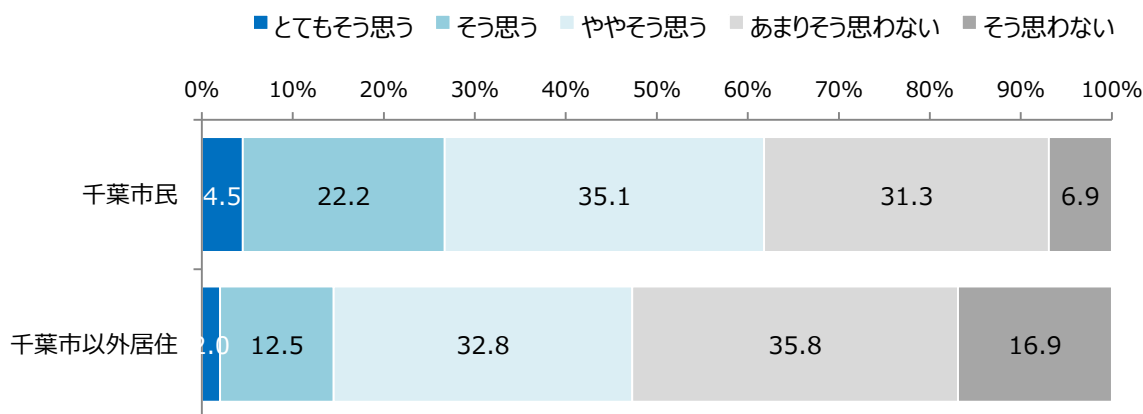
WEBアンケート回答者

[2014年基礎調査]



Q1「千葉氏」は、他の地域にあまりない千葉市らしいものだ

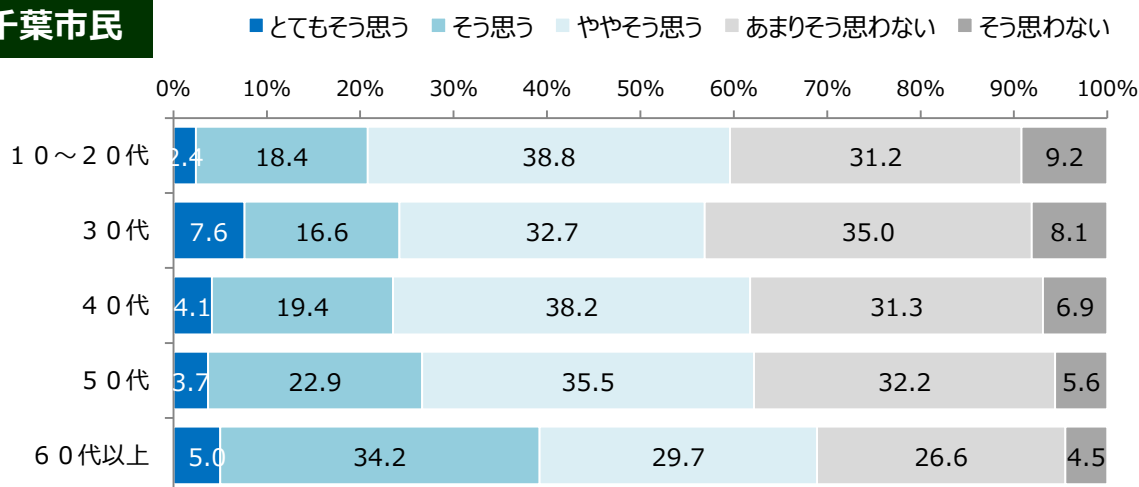
[2014年基礎調査]



- ・千葉氏を「千葉市らしい」と思う市民は、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を含めて、62%。
- ・千葉市外の居住者が、千葉氏を「千葉市らしい」と思う割合は、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を含めて、47%。

[2014年基礎調査]

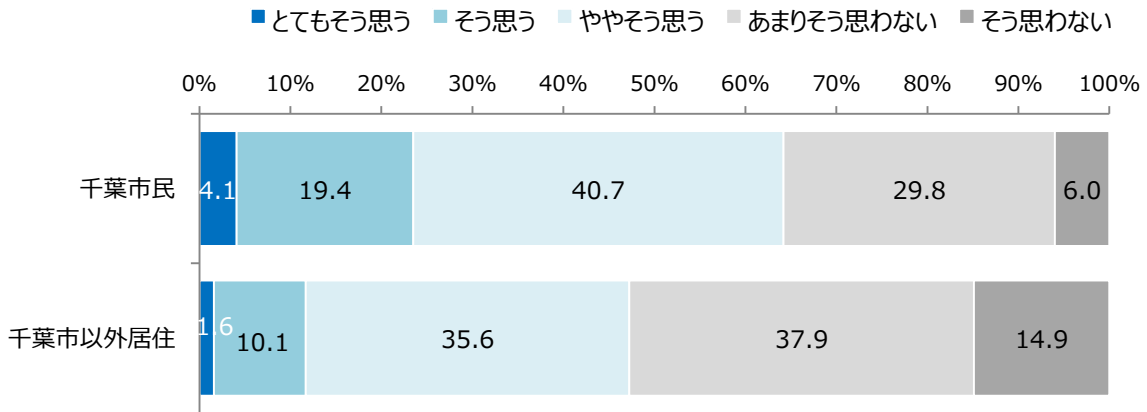
千葉市民



- ・千葉氏を「千葉市らしい」と思う市民は、60代以上で「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を含めて、69%。
- ・その他の年代の千葉氏を「千葉市らしい」と思う市民の割合は60%前後。

Q2「千葉氏」に対して、好印象がもてる

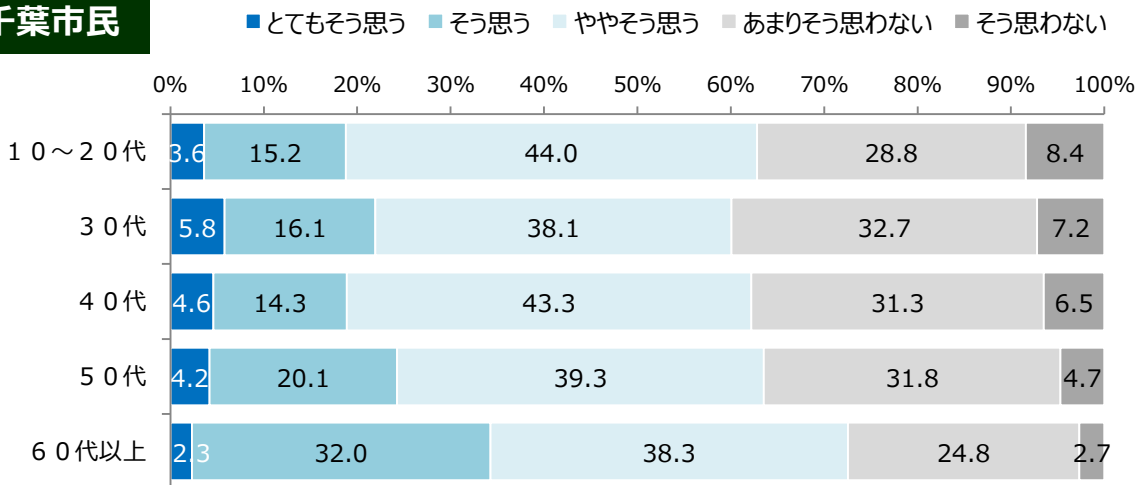
[2014年基礎調査]



- ・千葉氏に好印象を持っている市民は、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を含めて、64%。
- ・千葉市外の居住者が、千葉氏に好印象が持てると思う割合は、「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を含めて、47%。

[2014年基礎調査]

千葉市民

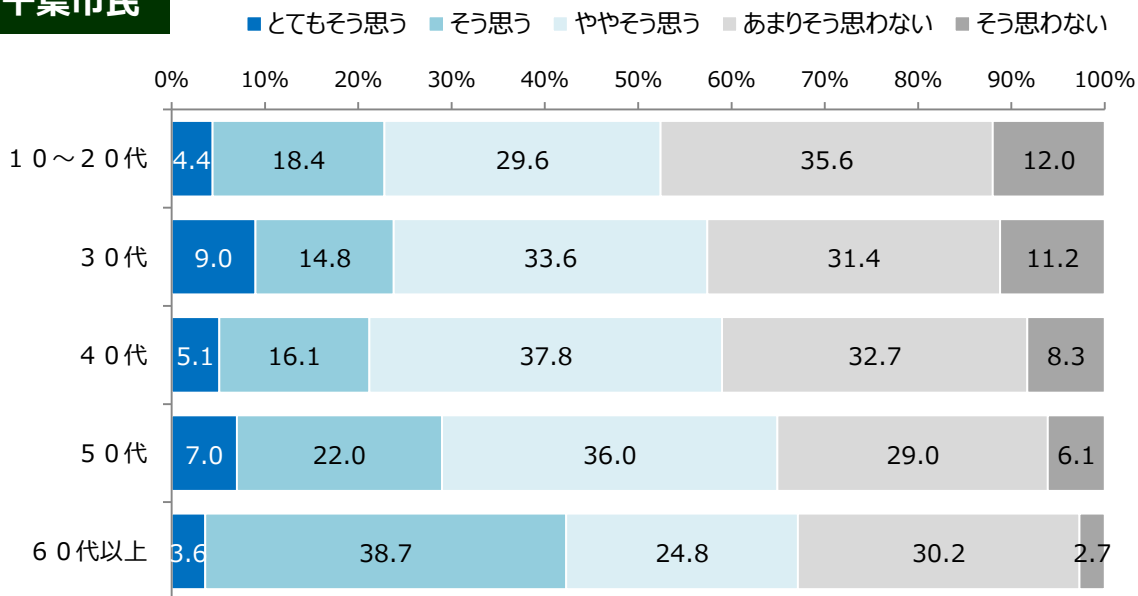


- ・千葉氏に好印象を持っている市民は、60代以上で「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」を含めて、73%。
- ・その他の年代の千葉氏に好印象を持っている市民の割合は60%強。

Q3「千葉氏」ゆかりの場所（亥鼻城など）に行ってみたい

[2014年基礎調査]

千葉市民



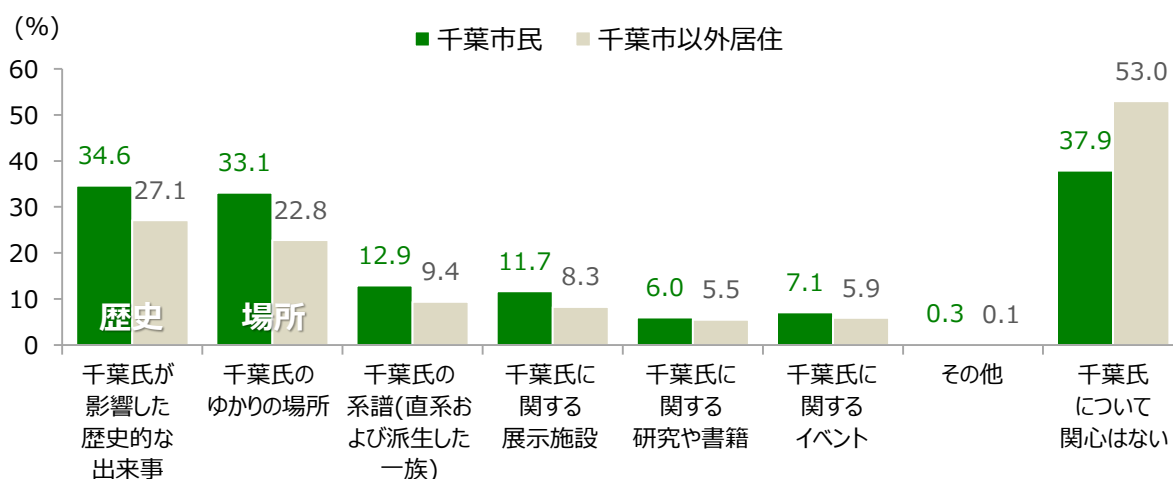
・「千葉氏」ゆかりの場所に行ってみたいと思う市民は、年代が高いほど上昇。

Q4「千葉氏」の説明を読んで、どのようなことに関心を持ちましたか。

[2014年基礎調査]

・説明文：

桓武平氏の流れをくむ「千葉氏」は、中世に活躍した武士の一族で、1126年に現在の千葉市に本拠地を構えて以来、源頼朝の鎌倉幕府の成立に多大な功績を挙げて千葉のまちを大きく発展させるとともに、東北から九州に至る全国で活躍しました。なお、千葉市の市章は、この「千葉氏」の月星の紋章に「千」を加えたものです。



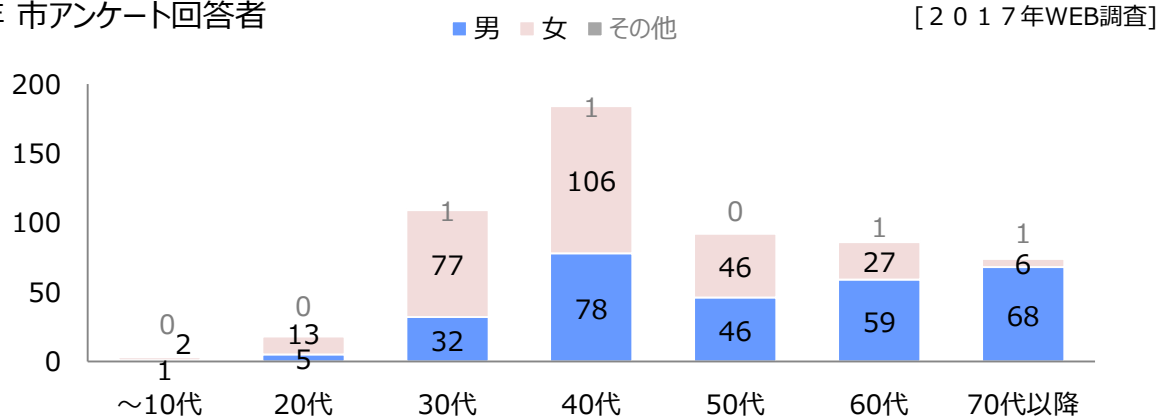
- ・「千葉氏」に関心がない市民が、38%。
- ・関心があることは、「千葉氏が影響した歴史的な出来事」や「千葉氏ゆかりの場所」。

イ 現在の状況

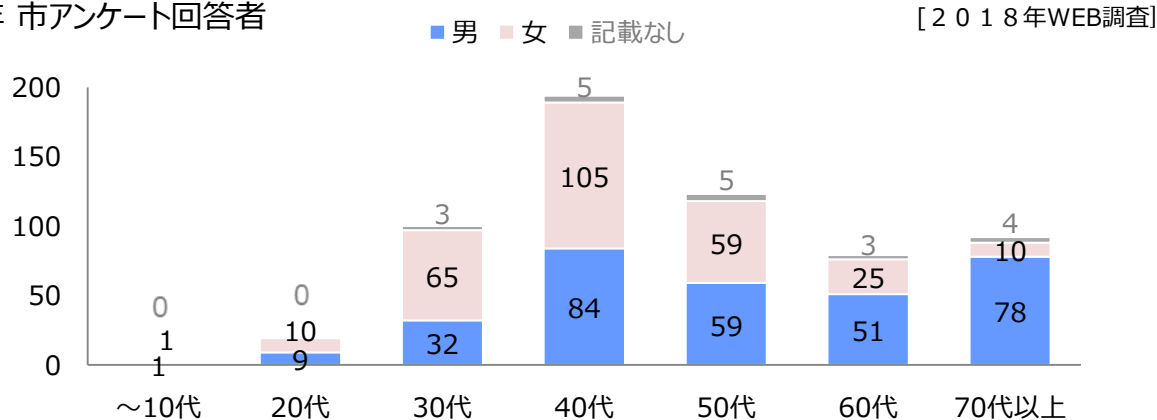
2017（平成29）年及び2018（平成30）年に行った市ホームページにおけるWEBアンケート

【調査概要】WEBアンケート（千葉市実施）	
・調査期間	2017年3月1日～10日 2018年3月1日～10日
・調査対象者	市民
・サンプル数	2017年 570人（男289人、女277人、その他4人） 2018年 609人（男314人、女275人、その他20人）

2017年 市アンケート回答者

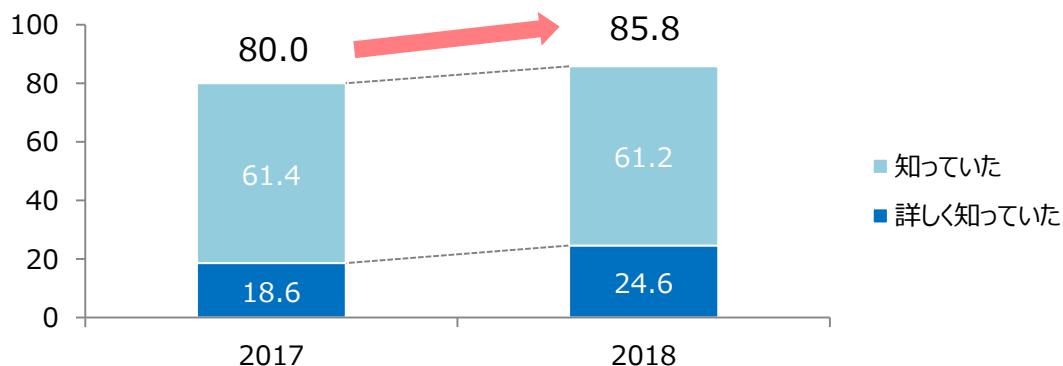


2018年 市アンケート回答者



Q1「千葉氏」を知っていましたか。

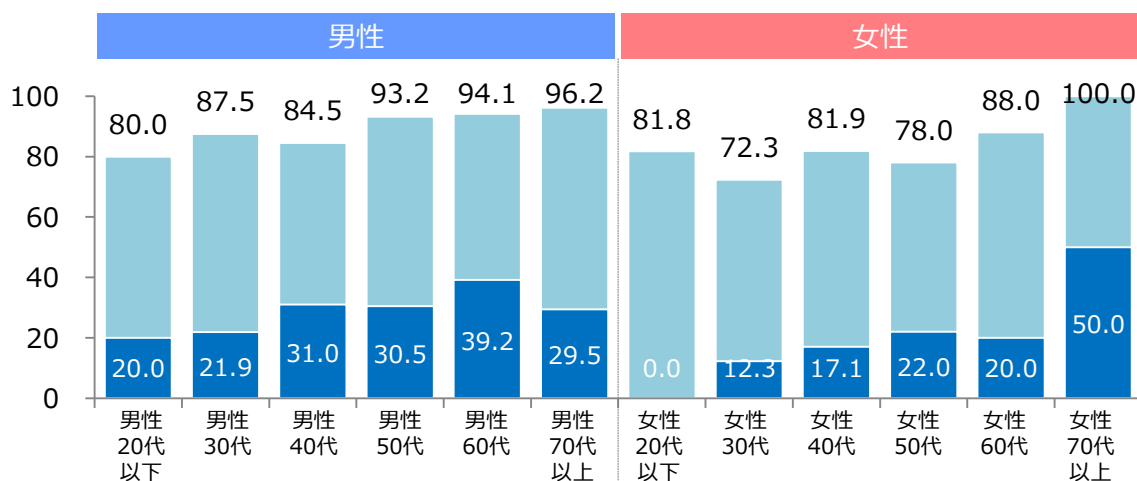
[2017年/2018年WEB調査]



・2017年と2018年を比較すると、千葉氏を「詳しく知っていた」が増加し、全体で約86%。

【性別・年代別認知度】

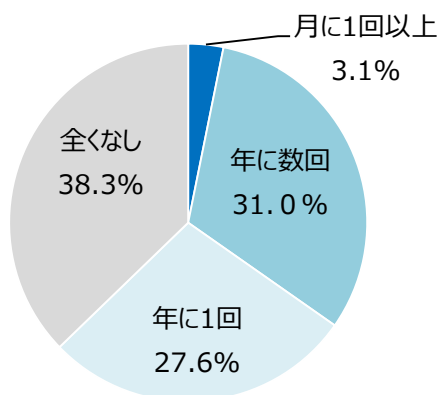
[2018年WEB調査]



・認知度のうち、詳しく知っている市民の割合は、男性は10～30代の若年層が低く、女性は、70代以外の全ての年代で低い。

Q2 この1年間に「千葉氏」について、見たり、聞いたり、触れたりしたことはどのくらいありましたか。

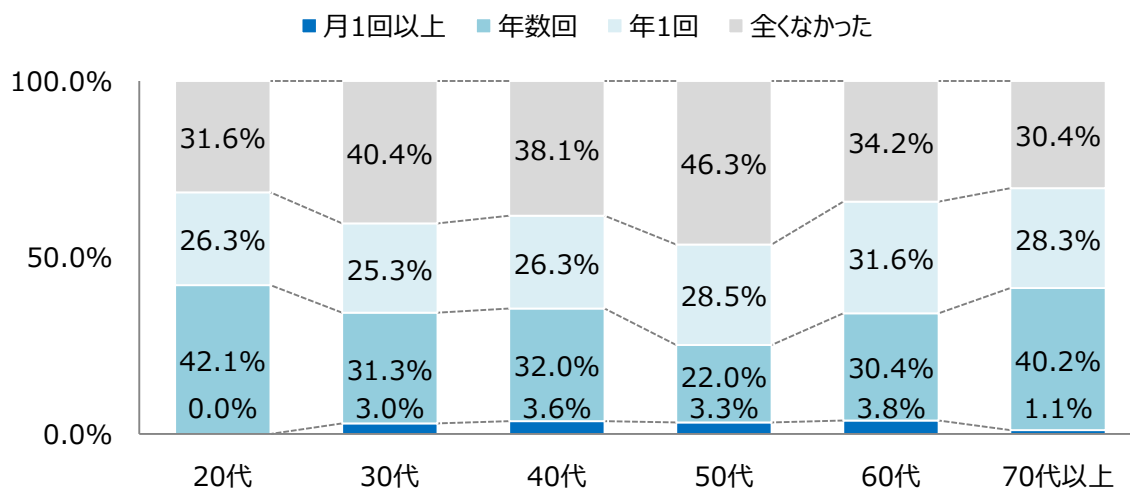
[2018年WEB調査]



・「千葉氏」への接触頻度は、「全くなし」、「年に1回」、「年に数回」が30%前後。

【年代別接触頻度】

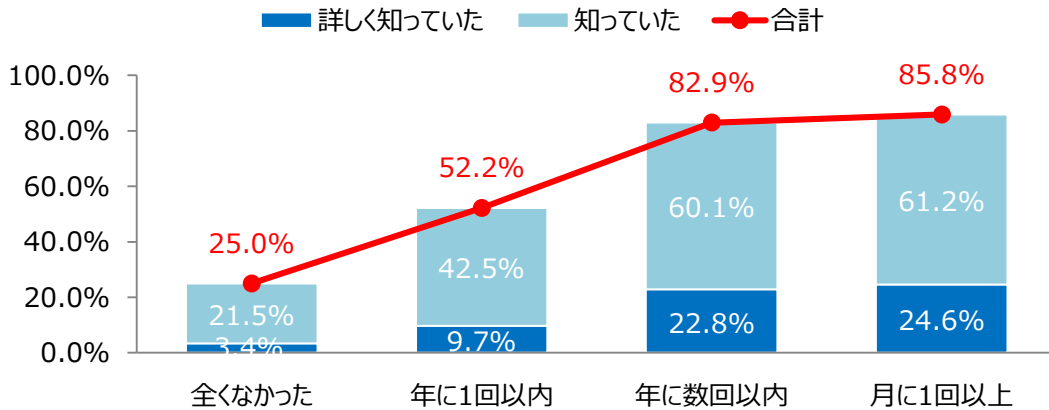
[2018年WEB調査]



・接触頻度は、70代以上で高く、50代が低い。

【Q2接触頻度×Q1千葉氏認知度】

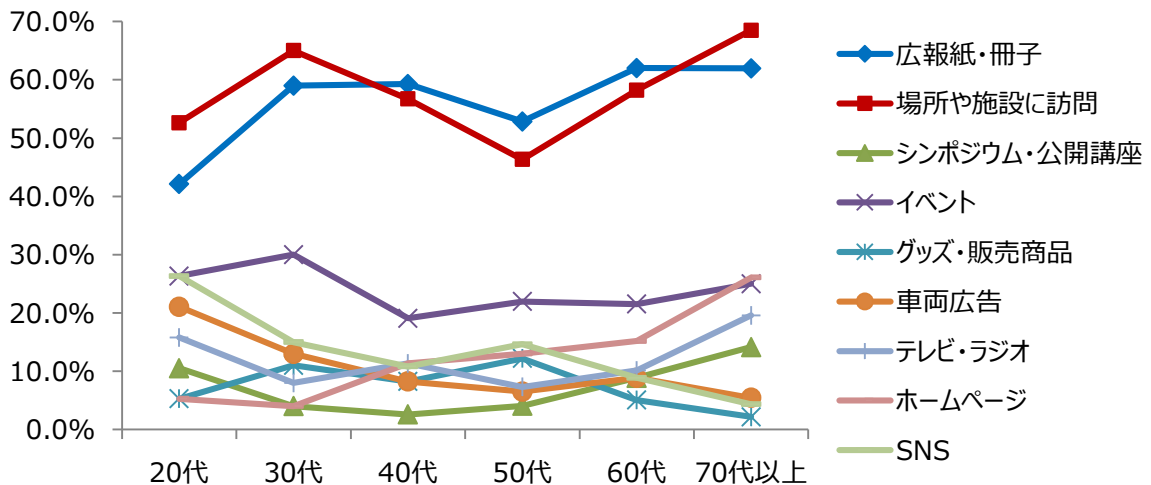
[2018年WEB調査]



・接触頻度が高いほど、認知度や理解度が高まる。

Q3 どのような機会に「千葉氏」に接しましたか。

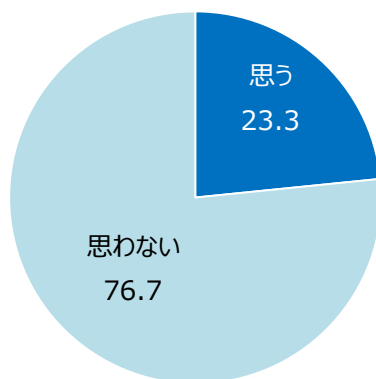
[2018年WEB調査]



・「広報紙・冊子」と「場所・施設への訪問」が全ての年代で高い。
 ・20代ではSNSが高い。

Q4「千葉氏」は市に良い印象を与えていると思いますか。

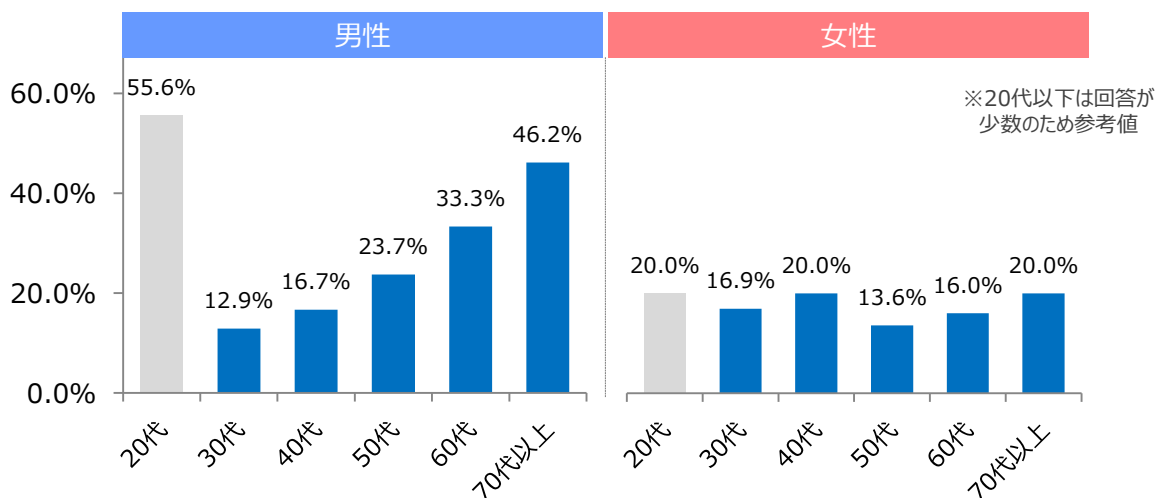
[2018年WEB調査]



・「千葉氏」が市に良い影響を与えていると思う割合は全体の4分の1程度。

【性別・年代別好意度】

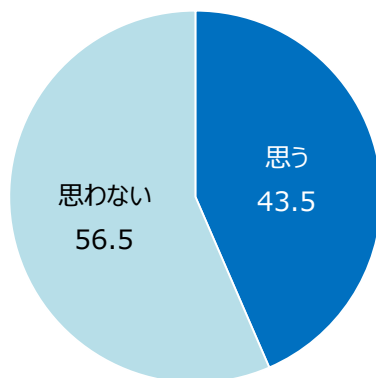
[2018年WEB調査]



・「千葉氏」は千葉市により印象を与えていると思う割合は、総じて男性が高く、女性が低い。

Q5都市アイデンティティがあると思いますか。

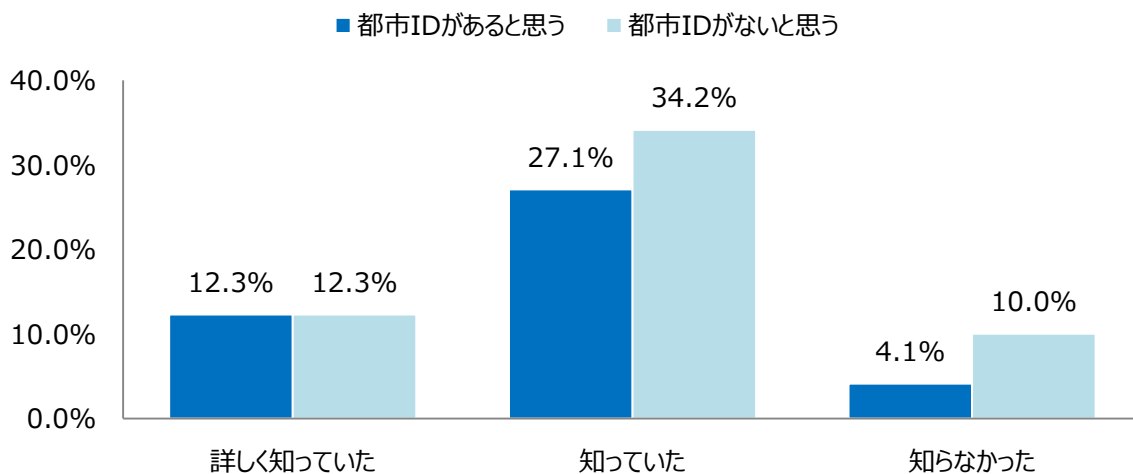
[2018年WEB調査]



・現在は、都市アイデンティティがあると思う人が、半数に満たない状況である。

【Q1認知度×Q5「都市アイデンティティがあると思う」】

[2018年WEB調査]



・「千葉氏」をより詳しく知るほど、IDがないと思う人に対するIDがあると思う人の割合は、相対的に増加。
 ・一方で、「千葉氏」を理解することのみで、IDを感じる人の絶対的な割合を増加させることは困難な状況も窺える。

ウ 課題分析

これまでのプランに基づく取組みの結果、認知度は向上していますが、必ずしも都市アイデンティティの確立には結びついていない現状があります。

都市アイデンティティを確立するためには、当然「千葉氏」の取組みのみでは不十分ではありますが、一方で「千葉氏」についてより理解を深めることで、相対的に都市アイデンティティを感じる人が増える傾向が窺われます。

市民へのWEBアンケートでは、ある程度認知度が高まっている状況も見られますが、今後は、単なる認知度からより理解度を高めるような伝え方が求められています。

また、理解度については、若年層や女性の理解が得られていない状況にあることから、継続的な学校教育の重要性が改めて認識されるとともに、義務教育課程を修了している10～20代の人々や、「千葉氏」に対して現在のところあまり好意を持っていない女性へのアプローチが必要です。

一方で、接触頻度が増えることによって理解度が高まるという相関関係が見られること、特に年に数回以上で効果が確認されていることから、触れる機会を1年を通じて提供し続けることが重要となります。

そこで、そもそも歴史や「千葉氏」に関心が低い人々に対しては、周辺の景観の中に自然に溶け込み、日常生活の中に「千葉氏」が感じられるような環境の整備が有効であると考えられます。

また、年代によって接触の機会が異なる状況が見られることや媒体が常に進歩し続けることから、対象に合わせた情報発信ツールの使い分けや他のコンテンツとの組み合わせなど、認知から理解につながる手法の工夫をするとともに、時代に合わせた効果的なツールを選択してゆく必要があります。

5.目標

プランにおいては、都市アイデンティティや各地域資源への好感度などの項目の値の向上を目指すこととしており、具体的な目標数値を掲げておりません。

しかしながら、本計画は、基本姿勢や指針を定めるものではなく、具体的な取組みを推進するための行動計画であることから、目標年次に目指す姿を明確にすることで、それを達成するための工程をより具体的に設定するとともに、的確に進捗管理できるようにするため、以下のとおり定量的な目標数値を設定します。

(1)成果指標

項目	現状値 (2017年度末)	最終目標値 (2026年度末)
千葉氏のことを「詳しく知っていた」と答えた市民の割合	24.6%	40.0%
千葉市に「都市アイデンティティがある」と答えた市民の割合	43.5%	60.0%

(2)施策の推進度を測る指標

項目	現状値 (2017年度末)	最終目標値 (2026年度末)
郷土博物館の入館者数	61,228人	80,000人
市以外が行う千葉氏に関連した講座やイベントなどの共催、後援数	8	15

6.具体的な取組み

ここでは、プランにおける施策体系における方向性ごとに、市及び市以外の団体、企業等の主体がそれぞれ、又は連携して行う具体的な取組みを示します。

プランの施策体系

方向性 1

4つの地域資源の
魅力あるコンテンツの充実

- (1) 「加曽利貝塚」の魅力あるコンテンツの整備
- (2) 「オオガハス」の魅力あるコンテンツの整備
- (3) 「千葉氏」の魅力あるコンテンツの整備
- (4) 「海辺」の魅力あるコンテンツの整備
- (5) 4つの地域資源を組み込んだ旅行・観光商品の充実
- (6) 4つの地域資源を身近に感じさせるキャラクターやグッズの充実

方向性 2

4つの地域資源に
親しみ楽しむ機会づくり

- (1) 博物館の機能強化や展示・講座等の充実
- (2) 学校教育における郷土教育の充実
- (3) 市民が知る・学べる機会の充実
- (4) 職員研修の充実
- (5) 4つの地域資源の認知を広げるイベントの充実
- (6) 4つの地域資源とのつながりを創るカルチャーの充実

方向性 3

「千葉市らしさ」の
見える化の推進

- (1) 「ハス」を目にできる環境づくり
- (2) 「鎌倉時代」などのイメージの浸透・定着
- (3) ビーチテイストのまちなみ形成
- (4) いなげの浜への歴史的モニュメントの設置
- (5) 公共施設・駅等における千葉市らしさの醸成
- (6) まちなかの案内板の整備

方向性 4

「千葉市らしさ」の醸成及び
その発信・プロモーション

- (1) 「千葉市らしさ」を市内外にアピールする記念行事・イベントの実施
- (2) シンボルとなる市章の活用やキャッチコピー等の検討
- (3) 戦略的な情報発信
- (4) 市民等が語り合える場づくり
- (5) 都市間交流の推進
- (6) 「さきがけとなる」施策の推進

(1)方向性1 魅力あるコンテンツの提供




千葉氏に関する資料の展示・研究・教育などの中核を担う郷土博物館をはじめ、千葉氏に係る史跡や文化財、伝承の地の紹介をより充実することで、千葉氏についてより理解を深める機会を提供し、千葉氏の地域資源としての魅力を高めます。

ア 方向性ごとのロードマップ

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
プランの段階	ステージ2【継承期】 4資源を皮切りに、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが、多彩な主体により進められる社会状態をつくる。				ステージ3【飛躍期】 積み重ねた「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりの実践を土台に、市内外に共有される「都市アイデンティティ」を確立する。			
取組の段階	・コンテンツを紹介するための調査及び環境整備				・整備した環境の下でのコンテンツ提供			

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (1/2)

実施主体	事業名	事業概要							
千葉市	郷土資料の学術的な調査・研究と成果の公表	<p>市民に郷土の成り立ちがわかるよう、郷土資料の調査・研究を継続的に実施し、その成果を講座や刊行物などで公表します。</p> <p>また、高い専門性をもった学芸員等の人材を確保し、郷土史の調査研究拠点としての機能を高めます。</p>							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		<p>実施 </p>							
	「千葉氏」に関する企画展の実施	<p>千葉氏について、市民に知ってもらい、興味をもってもらうきっかけとするため、千葉氏に関する企画展を実施します。</p> <p>また、関係資料の収集と常設部分のリニューアルに取り組みます。</p>							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		<p>実施 </p>							
	郷土博物館展示解説ボランティアの育成	<p>来館者が千葉氏について興味を持ちより深く理解できるようにするため、展示解説できる人材（ボランティア）を育成します。</p>							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		<p>実施 </p>							



「千葉氏」に関する企画展



ボランティアガイド風景

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (2/2)

実施主体	事業名	事業概要							
千葉市	郷土博物館周辺の整備	国内外からの観光客等に千葉氏の歴史に広く親しんでもらうため、郷土博物館周辺の史跡や伝承スポットにおける案内看板を設置又は更新します。また、歴史を体感できるような環境整備について検討します。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		計画	整備						
	亥鼻公園のサクラの再生	毎年、桜が開花する時期に多くの市民が訪れ賑わう亥鼻公園において、後世に名を残す桜の名所となるよう「千葉城さくら祭り実行委員会」と連携しサクラの再生に取り組んでいきます。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
	大椎城跡発掘調査	千葉氏発祥の地と伝えられる「大椎城跡」について、千葉開府900年に向けて、文化財としての学術的な位置づけを明らかにし、今後の保存活用方針決定につなげるべく、必要な調査を実施します。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		発掘調査	報告書刊行	保存・活用検討					
千葉市観光協会等	千葉城さくら植樹基金の募金活動 (千葉城さくら祭り実行委員会)	千葉開府の地にあたる亥鼻公園が、千葉開府900年(2026年)以降も後世に名を残す桜の名所となるよう、千葉市と連携しサクラの再生事業に取り組んでいきます。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							

(2)方向性2 親しみ楽しむ機会づくり

これまで学校教育における郷土教育の充実をはじめとして、市民向けの講座やイベント開催などにより千葉氏の認知度向上に努めてきた結果、多くの市民に千葉氏の名前が浸透するまでになりました。

今後は、より深い理解を市民に定着させるために、引き続き既存の取組みを着実に進めるとともに、まだ、認知が得られていない女性や若年層、市外の方々に対しても、様々な主体と協力して、祭りやイベント・街歩きなど、つい訪れたいくなるような、親しみやすく気軽に触れることのできる機会を提供します。

ア 方向性ごとのロードマップ

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
プランの段階	ステージ2【継承期】 4資源を皮切りに、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが、多彩な主体により進められる社会状態をつくる。				ステージ3【飛躍期】 積み重ねた「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりの実践を土台に、市内外に共有される「都市アイデンティティ」を確立する。			
取組の段階	<ul style="list-style-type: none"> 郷土教育の実施 市以外の実施主体による特色ある取組みを推進 				<ul style="list-style-type: none"> 郷土教育の実施 各主体の取組みの継続、充実 			

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (1/5)

実施主体	事業名	事業概要																	
千葉市	「わたしたちの千葉市」における郷土の歴史に関する内容の充実	小学校社会科副読本（「わたしたちの千葉市」）に、千葉氏をはじめとした地域資源を紹介するページを増設するとともに、千葉神社の祭り、千葉氏を取り上げるなど、内容を充実します。																	
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026										
		内容の追加		➔															
	下敷き「千葉市の自まん」の配布	千葉氏をはじめとした4つの地域資源や市歌を紹介する下敷きを制作し、小学校3年生に配布します。																	
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026										
		配布	➔																
	マンガなどを活用した、児童や保護者への郷土史の啓発	小学校6年生全児童にマンガ「千葉常胤公ものがたり」を配布し、授業で活用して千葉氏の功績について学ぶとともに、家庭における保護者への啓発にも活用します。加えて6月1日(千葉開府の日)に全校放送を行い、マンガの活用を呼びかけ、広く千葉氏の歴史について周知します。		 マンガを活用した郷土教育授業の実施				 武家源流づくりに賞状しりとり書き集録武家 千葉常胤公 ものがたり 源朝経著 文と 呼びしめな書 千葉市											
												2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
												マンガの活用		➔					
	社会科や総合的な学習の時間等での授業展開	小学校社会科副読本「わたしたちの千葉市」の第4学年「残したいもの、伝えたいもの」の単元で、千葉神社の祭りについて学ぶとともに、総合的な学習の時間において、各学校の近くにある千葉氏ゆかりの場所について調べるなどの授業を展開します。																	
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026										
		研修での周知		授業での展開		➔													

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (2/5)

実施主体	事業名	事業概要							
千葉市	中学校授業の充実	中学校の社会科副教材（「伸びゆく千葉市」）を活用し、千葉氏の歴史について学びます。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施 							
	高校歴史特別授業の実施	高校生が千葉氏の歴史を理解し、興味を持つきっかけとするため、中世の研究者を市立高校に派遣し、千葉氏や千葉の歴史について授業を実施します。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施 							
	教員の研修の充実	千葉氏に係る内容をはじめとした郷土教育を充実させるため、小学校や中学校、特別支援学校の教員に対して、千葉氏の歴史などについて研修を実施します。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施 							

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (3/5)

実施主体	事業名	事業概要							
千葉市	公開市民講座の実施	<p>幅広い世代が、千葉氏に係る最新の歴史研究に触れ、興味と理解を深められるように、研究機関等と協力して公開講座を実施します。</p>		 <p>千葉市・千葉大学公開市民講座</p>					
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
	歴史文化体験の実施	<p>千葉氏が活躍した時代の歴史や文化に興味や親しみを持つきっかけとするため、鎧や着物の着用や騎馬武者の体験の機会を設けます。</p>		 <p>騎馬武者体験</p>					
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
市民向け歴史・史跡ガイド制作	<p>4つの地域資源や本市の歴史を分かりやすく学べるような概説書として、また、観光や学校における郷土史教育等に資するための解説書としてブックレットを刊行します。</p>								
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
	編集	編集・刊行							

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (4/5)

実施主体	事業名	事業概要							
千葉市	職員の研修の充実	職員の千葉氏に係る知識を深め、広くまちづくりに活かすため、新規採用職員をはじめとした各職階の研修において都市アイデンティティの確立に係る内容を充実させます。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
千葉市	中央区魅力再発見まち歩きツアーの実施	中央区の隠れた魅力を再発見してもらうとともに、千葉氏の歴史に親しんでいたため(公社)千葉市観光協会の観光ボランティアガイドとともに、中央区にある史跡や名所等を巡るツアーを開催します。							
		中央区魅力再発見まち歩きツアー							
2019		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
2回に拡充		実施							
市民団体・千葉市	千葉の親子三代夏祭りの実施(千葉市を美しくする会)	市民意識・ふるさと意識の高揚を図るため、より多くの市民が参加し、見て、楽しめる祭りである「千葉の親子三代夏祭り」を実施します。							
		子ども武者行列							
2019		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
実施									
市制100周年 開府900年記念									

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (5/5)

実施主体	事業名	事業概要							
市民団体	市民団体の活動支援	市民団体が行う開府900年に向けた活動について、市民向け広報などの支援をします。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
千葉市観光協会	まち歩きガイドツアーの実施	国内外からの来訪者に千葉市の街のもつ特色をはじめ集積された文化・景観や地元で人気のお勧めスポットを紹介するため、市内各地に設定したコースを（公社）千葉市観光協会の観光ボランティアガイドが案内します。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
千葉市観光協会等	千葉城さくら祭りの実施 (千葉城さくら祭り実行委員会)	千葉開府の地にあたる亥鼻公園を会場に、千葉市の歴史を伝える郷土博物館と春の風物詩「桜」をはじめとする独自の文化や景観を守り、都市の貴重な財産として高めていくため、千葉開府900年に向け地域の魅力を持続的に高める観光イベントを開催していきます。						 千葉城さくら祭り 提供：千葉城さくら祭り実行委員会	
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
千葉JC	千葉氏に関する若年層の認知度を上げるためのイベントの実施	若年層をメインターゲットとして、千葉氏が感じられる祭りやスポーツ等の市民参加型イベントを開催します。							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							

(3)方向性3 「千葉氏」の見える化の推進

本市の発展の礎は千葉氏の活躍とともにあります。しかしながら、太平洋戦争時の千葉空襲やその後の復興、高度経済成長期の本市の発展は、急速な市街地化とともに充実した都市機能をもたらす一方、かつて千葉氏が隆盛を誇った中世の街並みや当時の歴史を伝える史跡の多くはその姿を変え、人々の意識から消えていってしまいました。


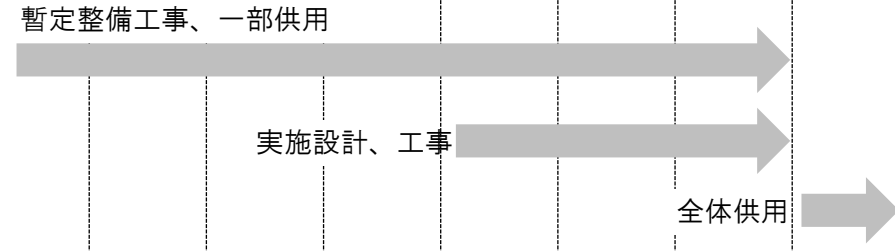
このことから、現在千葉氏に対して認知が低い、あるいは歴史に関心がない人々に対しても、日常生活の中で千葉氏の歴史や文化が自然に感じられる環境を整備することで、郷土「千葉市」への興味を喚起させるとともに、既に一定の理解がある人々にとっても郷土への誇りを醸成します。

ア 方向性ごとのロードマップ

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
プランの段階	ステージ2【継承期】 4資源を皮切りに、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが、多彩な主体により進められる社会状態をつくる。				ステージ3【飛躍期】 積み重ねた「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりの実践を土台に、市内外に共有される「都市アイデンティティ」を確立する。			
取組の段階	・見える化に向けた環境整備				・見える化に向けた環境整備			

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (1/2)

実施主体	事業名	事業概要								
千葉市	中央公園・通町公園の連結強化	<p>千葉氏等による「千葉らしさ」を感じるまちづくりを図るため、中央公園や通町公園、千葉神社を一体的にとらえ、まちの賑わいと回遊性を高める賑わい空間の整備を行います。</p>  <p style="text-align: right;">通町公園の再整備イメージ</p>								
		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td><td>2026</td> </tr> </table>	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	
	 <p>暫定整備工事、一部供用 (2019-2026)</p> <p>実施設計、工事 (2021-2026)</p> <p>全体供用 (2024-2026)</p>									
	史跡等における看板整備	<p>国内外からの観光客等に千葉氏の歴史に広く親んでもらうため、史跡や伝承スポットにおける案内看板を設置又は更新します。</p>								
		<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td><td>2026</td> </tr> </table>	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
2019		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">計画</td> <td style="width: 15%;">整備</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">→</td> </tr> </table>	計画	整備	→							
計画	整備	→								

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ (2/2)

実施主体	事業名	事業概要							
千葉市	道路照明灯等へのシール貼付	<p>千葉駅近辺など、千葉氏ゆかりの土地の雰囲気醸成するため、「道路照明灯」や「道路案内標識」の点検済みシールに、千葉氏のイラストをあしらったものを採用し貼付します。</p> <div data-bbox="891 369 1350 720" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="953 736 1272 765">道路照明灯点検済みシール</p>							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							
企業	イラスト入り広告看板の掲出	<p>郷土博物館周辺など、千葉氏ゆかりの土地の雰囲気醸成するため、民間事業者の協力により、千葉氏のイラストをあしらった電柱広告看板を掲出します。</p> <div data-bbox="939 1020 1248 1435" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="991 1445 1225 1474">電柱広告のデザイン</p>							
		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		実施							

(4)方向性4 「千葉市らしさ」の醸成及びプロモーション

2016（平成28）年の千葉開府890年や2018（平成30）年の千葉常胤生誕900年にあたり、千葉氏ゆかりの自治体とともに千葉氏サミットを開催し、全国に広がった千葉氏の足跡や、各地に残る史跡や伝統を大切にしている地域の取組みを学ぶ機会を得てきました。現在史跡や文化財があまり残されていない本市にとって、これらの自治体との連携は貴重であり、これまで千葉氏の史跡や資料に出会う機会がなかった人々にも各地に息づく文化に直接触れることは、翻って郷土の歴史を知ることにつながります。

今後は、千葉氏について、基本的な情報から、研究の成果、講座の情報、全国ゆかりの地の祭りの情報など整理し、様々な情報ツールを用いて戦略的に発信していきます。

ア 方向性ごとのロードマップ

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
プランの段階	ステージ2【継承期】 4資源を皮切りに、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが、多彩な主体により進められる社会状態をつくる。				ステージ3【飛躍期】 積み重ねた「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりの実践を土台に、市内外に共有される「都市アイデンティティ」を確立する。			
取組の段階	情報発信環境の整備、情報収集・整備				情報発信の推進			

6.具体的な取組み

イ 取組み別ロードマップ

実施主体	事業名	事業概要															
千葉市	情報発信の充実	千葉市の歴史や文化とともに、千葉市やゆかりの自治体や企業等に係る千葉氏に関連する情報や、郷土博物館の展示や催事などについて、SNS等も活用して効果的に発信するため、郷土博物館のホームページをリニューアルするほか、千葉氏に係るポータルサイトを開設、運営します。															
		<table border="1"> <tr> <td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td><td>2026</td> </tr> <tr> <td>開設</td><td>運営</td><td colspan="6">→</td> </tr> </table>	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	開設	運営	→				
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026									
	開設	運営	→														
小説等のコンテンツ募集	千葉氏の歴史をより広く知っていただくとともに、多方面への展開を見据え、小説等のコンテンツを募集します。																
	<table border="1"> <tr> <td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td><td>2026</td> </tr> <tr> <td></td><td>検討</td><td>募集</td><td>刊行</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026		検討	募集	刊行				
2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026										
	検討	募集	刊行														
千葉市十関連自治体	千葉氏サミット及び記念行事の開催	千葉氏を市内外にアピールするとともに、千葉氏ゆかりの自治体との連携の取組みを検討するため、自治体の首長が一堂に会すサミットを開催するとともに、市民が千葉氏の歴史や当時の文化を知り、触れる機会とするため、あわせて記念行事を実施します。															
		<table border="1"> <tr> <td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td><td>2026</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>実施</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>実施</td> </tr> </table>	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026			実施				
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026									
			実施					実施									
ゆかりの自治体との連携によるPR展開	千葉氏ゆかりの自治体と連携し、イベントにおけるブース出展などを行います。																
	<table border="1"> <tr> <td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td><td>2026</td> </tr> <tr> <td colspan="8">千葉の親子三代夏祭り 千葉氏コーナー →</td> </tr> </table>	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	千葉の親子三代夏祭り 千葉氏コーナー →							
2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026										
千葉の親子三代夏祭り 千葉氏コーナー →																	



千葉常胤生誕900年記念騎馬武者行列



千葉の親子三代夏祭り 千葉氏コーナー

～新たな展開を目指して

これまで、千葉氏のルーツを研究し魅力を発信する役割を郷土博物館が担ってきました。

郷土博物館は、昭和42年に「千葉市郷土館」の名称で開設され、昭和58年に博物館へ移行して以来、歴史・民俗系の博物館として、千葉氏をはじめとした千葉市域の歴史や文化の研究及び資料収集を行うとともに、展示や講座等の実施によりそれらの情報を広く発信する拠点として、市民に親しまれております。

今後市民に向けて千葉氏の理解の浸透と郷土に対する愛着・誇りを高めていくためには、郷土博物館がこれまで培ってきた資料収集や情報発信・研究などの機能をより充実していく必要があります。

また、科学技術の発展により、様々な主体への情報発信のツールや、見える化の手法などは、時代とともに変化していくことが考えられることから、常に千葉氏という地域資源に接触する機会を提供し続けるためには、技術の進化を活用しつつ、訴求する人々に合わせた効果的な手法を選択し実施していくことが求められます。

さらに、具体的な取組みを実施する主体として、行政以外にも企業、団体等も具体的に計画に位置づけたところですが、今後はより多くの主体が、千葉氏への理解を深めてその魅力を共有し、発信するような、「千葉市らしい」まちづくりの動きが自然と展開していく社会を実現することが重要です。

本計画においては、千葉氏のPR活動についてこれまでの活動を体系化するとともに、現在考える取組みについて具体化し、ロードマップとして整理しました。今後計画を進めるにあたっては、千葉氏に関する資料収集や情報発信・研究などの機能の検討を進めるとともに、まだ位置づけられていない主体による新たな取組みが次々と生まれ、様々なかたちで展開していくことを期待します。

資料編

1. 都市アイデンティティ戦略プランの概要
2. ステージ1【復活期】の取組み
3. ワークショップ(全4回)の経過報告
4. 千葉氏の年表
5. 千葉氏ゆかりの自治体の概要
6. 千葉開府850年祭の取組み

1. 都市アイデンティティ戦略プランの概要

1. 策定の趣旨

本市が活力を維持し、持続的に発展し続けるため、
市民が愛着と誇りを持ち「住み続けたい」と感じること
市外から「住んでみたい」「訪れてみたい」という魅力を感じてもらふこと
企業からも「選ばれる」都市になることが必要

千葉市
独自の
存在感

↓
これまでの取組み（子育て支援・教育・高齢者施策・安全安心のまちづくり等）に加え、
本市固有の歴史やルーツに基づく「都市アイデンティティ」を確立し、戦略的に展開していく

2. 本市の歴史と固有性

原始・古代： 加曾利貝塚（豊かな食資源に恵まれた縄文人の暮らし）、オオガハス（世界最古の花）
中世： 1126年 千葉開府（千葉常重が猪鼻付近に本拠を構える）→ 関東武士の活躍
近世： 佐倉藩・生実藩・天領などが入り混じる。海と陸の交通の要地として栄える
近代・現代： 県庁所在地、医療の街、軍隊の街。戦後、製鉄業誘致、消費都市から生産都市へ

本市の都市イメージ

「古いものと新しいもの、都会と田舎、さまざまな融合が魅力を生む街」
「海と緑に囲まれながら、本格的な文化・芸術・スポーツを楽しめる街」

本市の都市イメージは、比較的新しい地域資源（幕張メッセなど）をもとに形成されており
本市固有の歴史やルーツが十分に認知・活用されていないのが現状

3. 4つの地域資源の活用

本市固有の歴史やルーツに根差した

「加曾利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」を活用していく

- ・重要な歴史的資源、世界的にも貴重な独自性の高い財産
＝「都市アイデンティティ」形成の起点・基準点
- ・歴史的価値に加えて、現在や将来のライフスタイルに通じる気質や価値観を見出すことができる。
加曾利貝塚→平和で豊かな社会、オオガハス→交流や平和の象徴、
千葉常胤→自ら活躍して若い頼朝を援護、関東武士（馬・弓）、鎌倉時代（郷土に根差した生活）
海辺→豊かな暮らしと交流

4. 戦略プランの基本方針	
目的	「加曽利貝塚」「オオガハス」「千葉氏」「海辺」を起点・基準点として、都市アイデンティティを確立。 市民の愛着や誇りを醸成し、市外の認知や評価を獲得
目標	「千葉市らしさ」が定着し、市内外から認知される状態を目指す
指標	下記の指標について、現状値からの向上を目指す ○成果指標（アンケート調査により成果を把握） ・市の歴史や文化財に愛着を感じる市民の割合 ・市内の海辺に魅力を感じる市民の割合 ・千葉市に住み続けたいと思う市民の割合 ・千葉市に親しみを感じる人の割合 など ○施策の進捗度をはかる指標 ・入込観光客数 ・加曽利貝塚博物館入館者数 ・稲毛海浜公園利用者数 ・4資源の認知度 など
推定機関	目標年次： 千葉開府900年に当たる2026年 節目の年： 2016年 千葉開府890年 2020年 東京オリンピック・パラリンピック 2021年 市制施行100周年 2022年 政令市移行30周年 2026年 千葉開府900年

5. 推進の視点
<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト・ハード両面での展開 4つの地域資源をまちなかで日常的に見て、感じて、触れることができるようにする ・地域資源の関連付けによる活用 4つの地域資源を有機的につなげて活用したり、その他の地域資源と結び付けて活用 ・歴史が現在・未来につながる展開 4つの地域資源の歴史的な保全・活用に終始せず、現在・未来につながるよう展開 ・官民の多様な主体による取組みの推進 市民・団体・企業・大学等がみんなで共有するため、市民や団体等との対話や交流を深めつつ、取組みを推進

1. 都市アイデンティティ戦略プランの概要

6. 施策展開		
方向性	取組項目	主な事業例
方向性1	4つの地域資源の魅力あるコンテンツの充実	
	(1)「加曽利貝塚」の魅力あるコンテンツの整備	加曽利貝塚の特別史跡化の推進
	(2)「オオガハス」の魅力あるコンテンツの整備	オオガハスの系統保存及び栽培技術の向上
	(3)「千葉氏」の魅力あるコンテンツの整備	大椎城跡や千葉氏ゆかりの伝説の地の魅力向上 （「お茶の水」「君待橋」等）
	(4)「海辺」の魅力あるコンテンツの整備	「海辺のグランドデザイン」の実現に向けた施策の推進
	(5)4つの地域資源を組み込んだ旅行・観光商品の充実	4つの地域資源を活用した体験型観光メニューの開発・売り込み(多言語対応)
	(6)4つの地域資源を身近に感じさせるキャラクターやグッズの充実	4つの地域資源にかかわるグッズ・コスメ・土産品等の開発促進
方向性2	4つの地域資源に親しみ楽しむ機会づくり	
	(1)博物館の機能強化や展示・講座等の充実	郷土博物館での「千葉氏」に関する企画展の実施
	(2)学校教育における郷土教育の充実	千葉氏マンガを活用した児童や保護者への郷土史の啓発
	(3)市民が知る・学べる機会の充実	図書館での4つの地域資源をテーマとした企画展の実施
	(4)職員研修の充実	職員向けの4つの地域資源に関する研修の実施
	(5)4つの地域資源の認知を広げるイベントの充実	弓や馬にまつわるイベントの開催検討
	(6)4つの地域資源とのつながりを創るカルチャーの充実	千葉常胤が高齢で活躍したことを踏まえた高齢者施策との連携
方向性3	「千葉市らしさ」の見える化の推進	
	(1)「鎌倉時代」などのイメージの浸透・定着	「千葉駅周辺の活性化グランドデザイン」に基づく中央公園・通町公園の連結強化
	(2)「ハス」を目にできる環境づくり	市内各所にハスを鑑賞できる名所の整備
	(3)ビーチテイストのまちなみ形成	「ビーチテイスト」のまちなみの導入に向けた研究
	(4)いなげの浜への歴史的モニュメントの設置	官民連携による歴史的モニュメントの設置の検討
	(5)公共施設・駅等における千葉市らしさの醸成	鉄道駅等における「千葉市らしさ」の雰囲気づくり
	(6)まちなかの案内板の整備	千葉氏などの歴史関連施設を示す観光案内板の整備
方向性4	「千葉市らしさ」の醸成及びその発信・プロモーション	
	(1)「千葉市らしさ」を市内外にアピールする記念行事・イベントの実施	親子三代夏祭りにおける「千葉氏」「歴史」を感じさせる催しの実施
	(2)シンボルとなる市章の活用やキャッチコピー等の検討	コミュニケーションマークから市章への切り替えの推進
	(3)戦略的な情報発信	映像・パネル等の作成、千葉市ゆかりの著名人への千葉市らしさPRの依頼
	(4)市民等が語り合える場づくり	大学との連携による「千葉学」の推進
	(5)都市間交流の推進	千葉氏ゆかりの都市との連携・交流
	(6)「さきがけとなる」施策の推進	

1. 都市アイデンティティ戦略プランの概要

7. ロードマップ

年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
段階	ステージ1【復活期】 4資源の価値を整理し、認知度・関心度・理解度を高めていく。			ステージ2【継承期】 4資源を皮切りに、「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりが、多彩な主体により進められる社会状態をつくる。				ステージ3【飛翔期】 積み重ねた「千葉市らしい」まちづくり・ひとづくり・くらしづくりの実践を土台に、市内外に共有される「都市アイデンティティ」を確立する。			
節目の年	<ul style="list-style-type: none"> ● 千葉開府890年(2016) ● 千葉常胤生誕900年(2018) ● いなげの浜オープン40年(2016) ● 加曽利貝塚博物館開館50年(2016) 			<ul style="list-style-type: none"> ● 東京オリンピック・パラリンピック(2020) ● 市制施行100周年(2021) ● 政令市移行30周年(2022) ● オオガハス開花70周年(2022) 				<ul style="list-style-type: none"> ● 千葉開府900年(2026) ● いなげの浜オープン50年(2026) 			
方向性1 4つの地域資源の 魅力あるコンテンツの充実	4資源の魅力あるコンテンツの整備			4資源を組み込んだ旅行・観光商品やグッズ等の開発				4資源を組み込んだ旅行・観光商品やグッズ等の更新			
	4資源を組み込んだ旅行・観光商品やグッズ等の開発			4資源を組み込んだ旅行・観光商品やグッズ等の展開				4資源を組み込んだ旅行・観光商品やグッズ等の更新			
方向性2 4つの地域資源に 親しみ楽しむ機会づくり	幅広い市民が4資源を知り・親しむ機会づくり			4資源とつながる新たなカルチャー育成				多彩なカルチャーの開花			
	4資源とつながる新たなカルチャー育成			多彩なカルチャーの開花				独自のカルチャーの定着			
方向性3 「千葉市らしさ」の 見える化の推進	見える化事業の構想の検討			見える化事業の計画				見える化事業の具体化			
方向性4 「千葉市らしさ」の醸成及び その発信・プロモーション	アピールイベントの実施			戦略的かつ積極的な情報発信				アピールイベントの実施			
	戦略的かつ積極的な情報発信			千葉市らしさを語る場づくり				千葉市らしさを世界に発信する取組み			
	千葉市らしさを語る場づくり			千葉市らしさを市外に語る取組み				千葉市らしさを世界に発信する取組み			

2016年度（平成28年度）

●教育・講座

- ・マンガ「千葉常胤公ものがたり」の学校での活用・一般販売
本市の都市としての成立・発展の礎を築いた「千葉常胤」について、子どもたち（主に小学校6年生）に分かりやすく伝え、親しみを持ってもらうことを目的に制作し学校教育で活用
- ・下敷き「千葉市の自まん」の配付
4つの地域資源を紹介する下敷きを制作し、市内全小学校1年生（約8,000人）に配付
- ・郷土博物館実施 講座・企画展
 - ①千葉開府890年記念企画展「千葉妙見大縁起の世界—千葉妙見大縁起絵巻の全容—」
千葉氏と妙見との関わりを描いた県指定文化財「紙本著色千葉妙見大縁起絵巻」の全容を紹介する企画展を実施
〈実施日〉2016年8月9日～12月11日 〈期間入館者〉16,049人
 - ②パネル展「全国に広がった千葉氏」
全国に広がった千葉氏ゆかりの地を紹介するパネル展を実施
〈実施日〉2016年6月1日～9月30日 〈期間入館者〉18,871人
 - ③歴史講座
「千葉妙見大縁起絵巻と社会」をテーマに開催。千葉経済大学との共催
〈実施日〉2016年11月30日、12月7日、14日 〈場 所〉千葉経済大学

●プロモーション活動

- ・千葉開府890年記念イベントの開催
 - ①千葉開府式典
〈実施日〉2016年6月1日 〈場 所〉千葉駅そごう駅前広場
〈参加者〉約500人
 - ②千葉開府祭
〈実施日〉2016年6月4日 〈場 所〉中央公園
〈参加者〉約1,500人
- ・千葉氏を紹介する映像制作
千葉氏の功績、魅力、特徴等を分かりやすく映像で紹介
市のホームページや各区役所、モノレール千葉駅等で放映
- ・市公用車への市章の表記
市公用車の表示をコミュニケーションマークから市章へ切り替え
- ・千葉開府890年PR
ポスター（3,000枚作成）、のぼり旗（180本作成）、モノレール支柱広告、モノレールラッピング、公用車マグネット広告などによるPR

2. ステージ 1 【復活期】 の取組み

2016年度（平成28年度）

●都市間連携

- ・第1回千葉氏サミットの開催（2016年8月21日実施）
千葉の親子三代夏祭りと同じ日に、千葉氏ゆかりの都市の首長等を招待して開催
今後の連携を盛り込んだ共同宣言を締結
〈参加者〉約700人
- ・千葉の親子三代夏祭りへ千葉氏ゆかりの都市の展覧（2016年8月21日実施）
都市間交流の一環として、千葉氏ゆかりの都市による各地の名産品の販売など

●環境整備

- ・千葉駅モノレール連絡通路壁面等装飾掲示（2016年11月20日公開）
JR千葉駅とモノレール千葉駅との連絡通路の壁面に4つの地域資源のラッピング絵画を掲示

2017年度（平成29年度）

●プロモーション活動

- ・千葉常胤生誕900年記念ポスター制作
2018年の常胤生誕900年という節目の年を広く市民にPR
- ・街バルイベント「ちーバル」と連携した千葉氏PR（2017年10月29日ほか計6日）
千葉のまちバルであるちーバルと連携し、千葉氏グルメ（醤油の原型とされる「ひしお」を用いた料理）の提供や鎧等着用体験を実施
- ・千葉市×「初音ミク」コラボレーション（2017年8月31日、9月1日～3日）
初音ミク10周年を記念して、市章デザインを初音ミクデザインにしてコラボ
8月31日に市ホームページの市章を変更
〈アクセス数〉トップページ76,019件（前日比22.1倍）、企画紹介ページ29,804件（27.3倍）
9月1日～3日 幕張メッセ「マジカルミライ2017」へ出展
〈アクセス数〉グッズ配付数 6,957個

●都市間連携

- ・千葉の親子三代夏祭りへ千葉氏ゆかりの都市の展覧（2017年8月21日実施）

●環境整備

- ・中央公園・通町公園の連結強化
公園再整備計画策定

2017年度（平成29年度）

●教育・講座

- ・ 絵本「千葉市の自まん」の制作・配架・一般販売
4つの地域資源を含めた千葉市の魅力を子どもたちに分かりやすく紹介
市内小学校、保育園、幼稚園などに配架。3,000部制作
- ・ 下敷き「千葉市の自まん」の配付
4つの地域資源を紹介する下敷きを制作し、市内全小学校3年生（約8,000人）に配付
- ・ 歴史特別講義の実施
市立高校の日本史の授業に特別講師を招聘し、「千葉氏や鎌倉時代」に関する特別授業を実施
- ・ 千葉氏に関するシンポジウム「千葉氏フォーラム」の開催
鎌倉時代の食文化をテーマとした講演、パネルディスカッションを実施
〈実施日〉2017年6月4日 〈場 所〉千葉商工会議所第1ホール
〈来場者〉約250人
- ・ 千葉市と千葉大学による公開市民講座「千葉氏と日本中世のはじまり」の実施
幅広い世代を対象に、最新の歴史研究に触れる機会を創設
〈実施日〉2017年2月3日 〈場 所〉千葉大学西千葉キャンパス
〈来場者〉約300人
- ・ 郷土博物館実施 講座・企画展
 - ①特別展「戦国時代の千葉氏—古文書が語る争乱—」
市指定文化財「原文書」を中心に戦国時代の千葉氏についての展示を実施
〈実施日〉2017年10月31日～1月14日 〈期間入館者〉9,812人
 - ②企画展「鎌倉時代の食文化」
千葉氏フォーラムのテーマと関連する企画展を実施
〈実施日〉2017年5月25日～6月25日 〈期間入館者〉3,919人
 - ③鎌倉騎馬武者体験
千葉氏が活躍した鎌倉時代の武士について理解を深めるため、大鎧などを着用しての乗馬体験を実施
〈実施日〉2017年11月11日、12月9日 〈場 所〉郷土博物館前
〈参加者〉延307人
 - ④歴史講座
「戦国時代の千葉と諸勢力」をテーマに開催。千葉経済大学との共催
〈実施日〉2017年11月17日、24日、12月2日 〈場 所〉千葉経済大学
〈参加者〉延436人

2018年度（平成30年度）

●教育・講座

- ・下敷き「千葉市の自まん」の配付
4つの地域資源を紹介する下敷きを制作し、市内全小学校3年生（約8,000人）に配付
- ・マンガ「千葉常胤公ものがたり」の学校での活用・一般販売
市内全小学校6年生（約8,000人）に配付し、学校教育で活用
- ・歴史特別講義（高等学校）の実施
- ・千葉常胤生誕900年記念講演「千葉常胤63歳で世に出た人」・千葉氏フォーラム「千葉氏と妙見祭礼」の開催（第2回千葉氏サミットと合わせて実施）
〈実施日〉2018年5月27日 〈場 所〉三井ガーデンホテル千葉
〈来場者〉約500名
- ・千葉市と千葉大学による公開市民講座「千葉氏とアイデンティティ」の実施
〈実施日〉2019年2月9日 〈場 所〉千葉大学西千葉キャンパス
〈来場者〉約230名
- ・郷土博物館実施 講座・企画展
 - ①千葉常胤生誕900年記念特別展「千葉常胤と鎌倉幕府の成立—東国武士と武家政権—」
常胤の活躍した平安時代末期から鎌倉時代における千葉氏をはじめとする東国武士の動向を紹介する特別展を開催
〈実施日〉2018年10月23日～12月26日 〈期間入館者〉7,087人
 - ②パネル展「千葉常胤ゆかりの地」
市内に残る千葉常胤ゆかりの地を紹介するパネル展を実施
〈実施日〉2018年5月18日～7月1日 〈期間入館者〉5,731人
 - ③鎌倉騎馬武者体験
千葉氏が活躍した鎌倉時代の武士について理解を深めるため、大鎧などを着用しての乗馬体験を実施
〈実施日〉2018年9月22日、10月21日、11月10日
〈場 所〉動物公園、稲毛区民祭り会場、郷土博物館前 〈参加者〉154人
 - ④歴史講座
「鎌倉幕府成立と関東武士」をテーマに開催。千葉経済大学との共催
〈実施日〉2018年11月28日、12月5日、12日
〈場 所〉千葉経済大学 〈参加者〉延455人
- ・千葉氏まち歩きマップの制作・配付
市内にある千葉氏ゆかりの地を網羅したまち歩きマップを制作・配付（10,000部）

●プロモーション活動

- ・千葉常胤生誕900年行事の実施（騎馬武者行列等）
第2回千葉氏サミットと合わせ、県庁から千葉神社の間で、相馬野馬追及び千葉氏ゆかりの自治体の首長らによる騎馬武者行列を行うとともに、中央公園でPRイベントを開催
〈実施日〉2018年10月26日 〈来場者〉約6,600人
- ・街バルイベント「ちーバル」と連携した千葉氏PR（2017年9月17日ほか計6日）
ちーバルと連携し、「北斗の拳」とのコラボレーションの一環として、オリジナルカップ（2,000個）によるビールの販売やコースター（22,000枚）を制作し配付
- ・「千葉氏」×「北斗の拳」コラボレーション
北極星と北斗七星を守護神とした「千葉氏」と、同じく北斗七星がストーリーのキーとなる「北斗の拳」とのコラボレーションとして、千葉都市モノレール(株)等の事業者との連携やPRを実施

2018年度（平成30年度）

●都市間連携

- ・ 第2回千葉氏サミットの開催（2018年5月26日実施）
千葉氏ゆかりの都市の首長等により連携の方策を協議
- ・ 千葉の親子三代夏祭りへ千葉氏ゆかりの都市の出展（2018年8月19日実施）

●環境整備

- ・ 中央公園・通町公園の連結強化
公園等基本設計及び暫定整備の実施設計
- ・ 電柱広告の掲出
東京電力グループの協力を得て、イラスト付き電柱広告の募集・設置による街の景観を創出
- ・ 道路照明灯等へのシール貼付
「道路照明灯」や「道路案内標識」の点検済みシールによる街の景観を創出

ワークショップの実施概要

具体的なアクションプランを検討していくにあたって、千葉市の課題を明確に捉えた上で施策を策定するために計4回のワークショップを実施。市民を代表する声を踏まえるため、「(公社)千葉青年会議所」の会員が各回のワークショップに参加し、課題整理・あるべき姿・アクションすべきことのそれぞれについて議論しました。

●全4回のワークショップの実施概要

実施	日時	出席者	ワークショップの議題
第1回	2018/11/12(月) 20:15~21:45	参加：17名	千葉氏を活用して愛着/誇りを高めていく上での課題洗い出し 1. プロジェクトの概要共有 5分 2. 既存データから見える課題/仮説の共有 10分 3. 千葉氏の現状認識や課題について議論 25分 4. 千葉氏のストーリー共有 20分 5. 再度課題・千葉氏の魅力について議論 30分
第2回	2018/11/26(月) 20:00~22:00	参加：15名	課題の精緻化及び2026 GOALイメージのプレスト 1. PJ概要共有/千葉氏の歴史に関する共有 25分 2. 前回のワークショップの振り返り 10分 3. 千葉氏の問題点と魅力の洗い出し議論 30分 4. 他地域の事例共有 10分 5. GOALイメージの議論 30分
第3回	2018/12/10(月) 20:00~22:00	参加：12名	2026 GOALイメージ精緻化そのためにやるべきことプレスト 1. PJ概要共有/千葉氏の歴史振り返り 5分 2. 前回のワークショップの振り返り 10分 3. 目指すべきGOALイメージ精査の議論 30分 4. 既存千葉氏関連のアクション/施策共有 5分 5. 他地域の事例の共有 5分 6. アクション/施策のプレスト 50分
第4回	2019/01/28(月) 20:00~22:00	参加：13名	2026年に向けた「行動計画案」の検討 1. これまでのワークショップ振り返り 10分 2. 前回の振り返り及びコンセプト共有 15分 3. アクション/施策のアイデア結果共有 10分 4. JCとして実現できるアクションの議論 70分 5. 全体の行動計画を見据えた最終議論 10分

参加者：(公社)千葉青年会議所会員等

オブザーバー：千葉市都市アイデンティティ推進課/千葉市教育委員会文化財課/千葉市立郷土博物館の職員が参加

ワークショップ：参加者を3Grに分け、グループワークを通じて議論を深める形で実施

3. ワークショップ(全4回)の経過報告

●第1回ワークショップ：千葉氏を活用して愛着・誇りを高めていく上での課題洗い出し

実施	具体的な内容（抜粋）																													
<p>情報共有</p> <p>● 千葉市の課題共有</p> <p>● 千葉氏のストーリー共有</p>	<div data-bbox="482 349 915 683"> <h3>千葉市の現状</h3> <p>人口減少は全国や首都圏全体の動向であり、千葉市だけが将来にわたって人口を維持することは困難であるが、他都市よりも人口減少が緩やかで、年代構成のバランスのとれた、就業人口や交流人口も多い魅力的で活力ある社会を築くことが重要</p> <p>そのために必要なこと...</p> <p>住む場所としての魅力であることや、他く観光・レジャーの場としても選ばれ続けることが必要。住みやすいと感じたいと思われようとする都市の魅力アップへの対応が必要。</p> <p>市民・団体・企業・大学など 様々な主体と行政との連携強化</p> <p>未来のまちづくりを担う人材の育成</p> </div> <div data-bbox="482 716 915 1051"> <h3>アクションプランにつながる千葉氏のストーリー</h3> <p>メインストーリー：インパクトがあって、広く愛されてもらえるストーリー 一般的生活から離れ、力がかつた、誇りを生かしたストーリー ・千葉市民として誇りに思えるストーリー ⇒武家政権設立の歴史的転換時に、鎌倉幕府設立に貢献した立役者 千葉常胤 地方の一族から鎌倉幕府で屈指の有力御家人にまで上り詰めた出世物語 そして今につながる千葉氏活躍の400年の歴史</p> <p>サブストーリー①：歴史的事実に賛否、リアルな人と感じさせ、感情移入させる ⇒千葉常胤の人となり</p> <p>サブストーリー②：千葉氏一族を400年に渡り継ぎ、精神的な変遷して変えた文化運動 ⇒千葉氏と妙見信仰</p> <p>サブストーリー③：自分に関係ない過去のことせず、今の生活とつながりをつくる ⇒身近にある千葉氏ゆかりの地</p> <p>サブストーリー④：人生100年時代における手本としての関心を高める ⇒63歳から世に出た千葉常胤</p> </div>	<div data-bbox="939 349 1363 683"> <h3>市にアイデンティティとして捉えられているか？</h3> <p>4.資源が市に良い印象を与えていると思う（経年変化）</p> <p>都市アイデンティティ市民意識調査 Q.本市に良い印象を与えているものは次のうちですか。</p> <table border="1"> <tr> <th>資源</th> <th>2017.3</th> <th>2018.3</th> <th>2017.3</th> <th>2018.3</th> <th>2017.3</th> <th>2018.3</th> </tr> <tr> <td>自然環境</td> <td>44%</td> <td>51%</td> <td>56%</td> <td>51%</td> <td>22%</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>文化・芸術</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>71%</td> <td>72%</td> </tr> <tr> <td>歴史・文化</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6%</td> <td>6%</td> </tr> </table> <p>物の資源に比べてまだ実感していない</p> <p>一方...千葉氏が「市に良い影響を与えている」と思う市民は2割 = 知られているが、「市の資産と感じられていない」状況</p> </div> <div data-bbox="939 716 1363 1051"> <h3>メインストーリー</h3> <p>武家政権設立の歴史的転換時に、鎌倉幕府設立に貢献した立役者 千葉常胤 地方の一族から鎌倉幕府で屈指の有力御家人にまで上り詰めた出世物語 そして今につながる千葉氏活躍の400年の歴史</p> <p>【千葉の町の歴史】 1126年千葉常胤の父常胤は、本拠地を千葉に移した。これが今の千葉の町のはじまりでした。 1180年頃に鎌倉幕府は、当時絶大な勢力を誇る平清盛に対して参謀しますが、石碓山の戦いで戦死、再建を断りて安に参謀せず、その結果として、上野原とともに関東幕府で活躍。</p> <p>【千葉常胤 義経の夢を継ぐ】 義経の夢を継ぐために千葉常胤は、下流の代官の館を急襲し、平氏領の軍への参加に踏み切ります。そしてその後千葉常胤は、勢力を拡大しながら鎌倉に入ります。 そして、富士川の戦いで平氏の軍勢を退け、1184年には本拠地を神奈川、一ノ谷の戦いで、1185年頃に鎌倉で参謀として参謀を断ります。千葉常胤は、この結果として、頼朝が「父の夢に誇り」と言われるまでの御前参謀を任じていきます。</p> <p>【千葉常胤 鎌倉幕府成立への貢献】 その後、千葉常胤は「頼朝の参謀」として九州における平家頼朝の接収にあたり、さらには1189年「東海大徳寺」として頼朝の菩提寺を建て、鎌倉幕府の安定への多大なる貢献をしています。 こうして鎌倉幕府は確立していき、それと同時に地方の一族が次々千葉常胤、千葉氏に参謀となり、上野原ととも、遠く陸奥から九州に至るまで所領を有する鎌倉幕府で屈指の有力御家人にまで参謀を務めて行きます。 千葉の町を築いた千葉氏、千葉常胤は、平清盛と頼朝と、頼朝と頼朝から武家政権へと歴史的転換を成し遂げた時代、鎌倉幕府成立の功労者と見えます。</p> </div>	資源	2017.3	2018.3	2017.3	2018.3	2017.3	2018.3	自然環境	44%	51%	56%	51%	22%	23%	文化・芸術					71%	72%	歴史・文化					6%	6%
資源	2017.3	2018.3	2017.3	2018.3	2017.3	2018.3																								
自然環境	44%	51%	56%	51%	22%	23%																								
文化・芸術					71%	72%																								
歴史・文化					6%	6%																								
<p>ワークショップ</p>	<div data-bbox="197 1097 449 1806"> <p>● 千葉氏の課題 ディスカッション</p> </div> <div data-bbox="535 1136 1363 1806"> <h3><千葉氏の課題 結果整理></h3> <p>知られていない 名前を知っている人はあるがイメージまでは... 何をよみかたがストーリーまで知らない</p> <p>そもそも知れる場・機会がない 生活している情報に出会えない</p> <p>興味関心がない 女性は歴史に興味がない 地理の方が好き</p> <p>千葉氏を人気者に 小学校から... 歴史の教科書に載せてもらう 千葉氏記念館をつくる テレビで見かけない まずは地元メディアに取り上げられる コスプレコンテスト カードゲーム ゆるキャラ 大河ドラマ、映画 平清盛を打倒するヒーロー</p> <p>日常生活の中での接点づくり 猫・甲冑をテーマにしたイベント、まちづくり 看板等で、日常生活の中で接点をつくる 戦国まわりのイメージ醸成</p> <p>知りたいと思わせるきっかけ・入口づくり 漫画 伝統してわかりやすい インスタ映え 若者向けのジュエリーがない SNS系 手に取りやすいサイズ(単行本) 愛着・誇りにつながるヒント (市民を巻き込む)</p> <p>千葉氏を盛り上げようとする街の雰囲気づくり 駅前のアピールが弱い キャッチフレーズ 千葉六党の活用 千葉市6区で対抗戦 ストーリーをつくる? 神社、寺で神格化</p> <p>千葉氏の課題 他の歴史に比べて弱い (歴史人物、歴史資産) 感情移入しにくい (ストーリー性や登場人物) ストーリーがない/難しい</p> </div>																													

●第2回ワークショップ：課題の精緻化及び2026年のGOALイメージのプレスト

実施	具体的な内容（抜粋）																
情報共有	<p>● 前回ワークショップ 振り返り</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="242 376 678 705"> <p>千葉氏の課題</p> <p>現状のストーリーをそのまま伝えたとしても、「千葉氏の理解」は深まるが愛着・誇りにつなげていくのは難しい。 千葉氏の人間的なキャラクターが伝えず、愛着・誇りにつなげることが難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史から信頼されていることを知っても、信頼自体が世の中で人気はそこまで高くないので、アピールは難しいのでは。愛着の場も少ない。 ● 歴史から信頼されていることを知っても、信頼自体が世の中で人気はそこまで高くないので、アピールは難しいのでは。愛着の場も少ない。 <p>● 感情移入しにくい</p> <p>千葉氏のキャラクターがわかりやすく、感情移入しにくい。差別化しなくては感情移入できるかも。</p> <p>● ストーリー性（難しさなど）</p> <p>歴史の事実に対して想像力が広がるようなストーリーがない</p> <p>鎌倉幕府成立時に確定してしまっているのか</p> <p>千葉氏を想起させるインパクトの強い出来事はなく、深く話を聞かないと興味を持ちにくい</p> <p>若者や女性向けのストーリー、ビジュアルがない</p> </div> <div data-bbox="735 376 1170 705"> <p>千葉氏の魅力点</p> <p>知られざる存在ながら、鎌倉幕府成立に貢献</p> <p>千葉常胤の「義に厚い人間性」</p> <p>63歳から世に出たという独自性</p> <p>妙見信仰</p> <p>市原と銚子のつながりは親近感につながる</p> <p>他の地域への影響、関係</p> </div> </div> <p>● 他地域の事例共有</p>																
ワークショップ	<p>● 千葉氏の問題点&魅力の 洗い出し</p> <p>● GOALイメージプレスト</p> <p style="text-align: center;">＜千葉氏の問題点&GOALイメージ 結果整理＞</p> <div style="display: flex;"> <div data-bbox="192 917 464 1352" style="flex: 1;"> <p>千葉開府900年 11/26 第二回ワークショップ 8グループ</p> <p>千葉開府900年 11/26 第二回ワークショップ 9グループ</p> <p>千葉開府900年 11/26 第二回ワークショップ 6グループ</p> </div> <div data-bbox="606 859 1249 1342" style="flex: 2;"> <p>問題点の整理</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>現状のコンディション</p> <p>知られていないし、そもそも関心もない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ そもそも知られていない ✓ 普通過ぎて資料がない ✓ 歴史自体にそこまで興味関心が少ない ✓ 歴史の権威化をどう説明しても伝わらない ✓ 熱情的過ぎて伝わらない </td> <td> <p>知る場・機会が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏を知る機会・場がない ✓ 市内に残っているもの少ない </td> <td> <p>千葉氏(一族)自体的問題点</p> <p>個々のストーリーのインパクトが弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 知ってアピール力は弱い ✓ 妙見信仰が伝わるストーリーがない ✓ 鎌倉幕府成立が最大のポイントのみ ✓ ストーリーが面白くない ✓ 千葉氏以外の出来事がない ✓ 一族だけで親近感がある？ </td> <td> <p>感情移入できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ライバルがいない ✓ 義が見えない ✓ 苦労したことはわかるが具体的に知らない ✓ 市民が千葉氏を好きになるポイントがわからない </td> </tr> <tr> <td> <p>千葉氏を盛り上げようとする街の雰囲気がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏を盛り上げようという街の雰囲気がない ✓ まちの魅力が少ない </td> <td> <p>知りたいと思わせるきっかけがない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 魅力的なストーリーがあったとしても、まずそれを知ろうと思ってもらうようなポイントがない ✓ 知るきっかけがない </td> <td> <p>千葉氏 = ●●がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ アピールしている要素が統一されていない ✓ 時代が経てくると絞れない ✓ なんでもがあるが、特別なものもない、メインがない </td> <td> <p>コンセプト、ターゲットが不明確</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ターゲットが不明確 ✓ 千葉氏を好きになるポイントがわからない ✓ ミニマムな市民を取り込めない(子ども/若年層/外国人) </td> </tr> </table> </div> </div> <div data-bbox="606 1371 1249 1825" style="flex: 2;"> <p>千葉氏の魅力</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>知られていないからこそ感じる親近感</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2軍感こそ親近感 ✓ 自虐ネタが使える ✓ 劣等感を逆手に </td> <td> <p>鎌倉幕府から紡ぐ悠久の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 鎌倉幕府の立役者 ✓ 400年経ち、全国に誇る(徳川幕府成立の年々々) ✓ 江戸より長い鎌倉時代のストーリーがある ✓ ゆかりの有名な人いる(新井白石、千葉常胤など)上杉謙信を敬った </td> <td> <p>義に厚い人間性 遅咲きの独自性</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「義」に重く、忠義の人 ✓ 源頼朝に信頼されていた ✓ 63歳での決戦「義に敵」勝負強い ✓ 63歳で世に出たことは、同年代の高齢の方には魅力かも </td> <td> <p>知られていないからこそイメージをつけやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ほとんど知られていない ✓ マイネーなど </td> </tr> <tr> <td> <p>千葉氏六党 ストーリーが広がる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏六党のキャラクター性 ✓ 6人の特徴が使える ✓ 子ども受けする(ヒーローもの) </td> <td> <p>全国への影響力 感度の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉市のルーツが全国に影響を与えている ✓ 千葉市だけでなく全国で活躍している ✓ これまで全国に広まってきた一族は少ないのでは </td> <td> <p>市とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 市原が家紋からできている ✓ 人の名前が地名になっている </td> <td> <p>妙見信仰</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 北尾星、北七郎、妙見信仰の伝説をマンガに ✓ ロマン </td> </tr> </table> </div>	<p>現状のコンディション</p> <p>知られていないし、そもそも関心もない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ そもそも知られていない ✓ 普通過ぎて資料がない ✓ 歴史自体にそこまで興味関心が少ない ✓ 歴史の権威化をどう説明しても伝わらない ✓ 熱情的過ぎて伝わらない 	<p>知る場・機会が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏を知る機会・場がない ✓ 市内に残っているもの少ない 	<p>千葉氏(一族)自体的問題点</p> <p>個々のストーリーのインパクトが弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 知ってアピール力は弱い ✓ 妙見信仰が伝わるストーリーがない ✓ 鎌倉幕府成立が最大のポイントのみ ✓ ストーリーが面白くない ✓ 千葉氏以外の出来事がない ✓ 一族だけで親近感がある？ 	<p>感情移入できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ライバルがいない ✓ 義が見えない ✓ 苦労したことはわかるが具体的に知らない ✓ 市民が千葉氏を好きになるポイントがわからない 	<p>千葉氏を盛り上げようとする街の雰囲気がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏を盛り上げようという街の雰囲気がない ✓ まちの魅力が少ない 	<p>知りたいと思わせるきっかけがない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 魅力的なストーリーがあったとしても、まずそれを知ろうと思ってもらうようなポイントがない ✓ 知るきっかけがない 	<p>千葉氏 = ●●がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ アピールしている要素が統一されていない ✓ 時代が経てくると絞れない ✓ なんでもがあるが、特別なものもない、メインがない 	<p>コンセプト、ターゲットが不明確</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ターゲットが不明確 ✓ 千葉氏を好きになるポイントがわからない ✓ ミニマムな市民を取り込めない(子ども/若年層/外国人) 	<p>知られていないからこそ感じる親近感</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2軍感こそ親近感 ✓ 自虐ネタが使える ✓ 劣等感を逆手に 	<p>鎌倉幕府から紡ぐ悠久の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 鎌倉幕府の立役者 ✓ 400年経ち、全国に誇る(徳川幕府成立の年々々) ✓ 江戸より長い鎌倉時代のストーリーがある ✓ ゆかりの有名な人いる(新井白石、千葉常胤など)上杉謙信を敬った 	<p>義に厚い人間性 遅咲きの独自性</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「義」に重く、忠義の人 ✓ 源頼朝に信頼されていた ✓ 63歳での決戦「義に敵」勝負強い ✓ 63歳で世に出たことは、同年代の高齢の方には魅力かも 	<p>知られていないからこそイメージをつけやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ほとんど知られていない ✓ マイネーなど 	<p>千葉氏六党 ストーリーが広がる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏六党のキャラクター性 ✓ 6人の特徴が使える ✓ 子ども受けする(ヒーローもの) 	<p>全国への影響力 感度の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉市のルーツが全国に影響を与えている ✓ 千葉市だけでなく全国で活躍している ✓ これまで全国に広まってきた一族は少ないのでは 	<p>市とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 市原が家紋からできている ✓ 人の名前が地名になっている 	<p>妙見信仰</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 北尾星、北七郎、妙見信仰の伝説をマンガに ✓ ロマン
<p>現状のコンディション</p> <p>知られていないし、そもそも関心もない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ そもそも知られていない ✓ 普通過ぎて資料がない ✓ 歴史自体にそこまで興味関心が少ない ✓ 歴史の権威化をどう説明しても伝わらない ✓ 熱情的過ぎて伝わらない 	<p>知る場・機会が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏を知る機会・場がない ✓ 市内に残っているもの少ない 	<p>千葉氏(一族)自体的問題点</p> <p>個々のストーリーのインパクトが弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 知ってアピール力は弱い ✓ 妙見信仰が伝わるストーリーがない ✓ 鎌倉幕府成立が最大のポイントのみ ✓ ストーリーが面白くない ✓ 千葉氏以外の出来事がない ✓ 一族だけで親近感がある？ 	<p>感情移入できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ライバルがいない ✓ 義が見えない ✓ 苦労したことはわかるが具体的に知らない ✓ 市民が千葉氏を好きになるポイントがわからない 														
<p>千葉氏を盛り上げようとする街の雰囲気がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏を盛り上げようという街の雰囲気がない ✓ まちの魅力が少ない 	<p>知りたいと思わせるきっかけがない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 魅力的なストーリーがあったとしても、まずそれを知ろうと思ってもらうようなポイントがない ✓ 知るきっかけがない 	<p>千葉氏 = ●●がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ アピールしている要素が統一されていない ✓ 時代が経てくると絞れない ✓ なんでもがあるが、特別なものもない、メインがない 	<p>コンセプト、ターゲットが不明確</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ターゲットが不明確 ✓ 千葉氏を好きになるポイントがわからない ✓ ミニマムな市民を取り込めない(子ども/若年層/外国人) 														
<p>知られていないからこそ感じる親近感</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2軍感こそ親近感 ✓ 自虐ネタが使える ✓ 劣等感を逆手に 	<p>鎌倉幕府から紡ぐ悠久の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 鎌倉幕府の立役者 ✓ 400年経ち、全国に誇る(徳川幕府成立の年々々) ✓ 江戸より長い鎌倉時代のストーリーがある ✓ ゆかりの有名な人いる(新井白石、千葉常胤など)上杉謙信を敬った 	<p>義に厚い人間性 遅咲きの独自性</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「義」に重く、忠義の人 ✓ 源頼朝に信頼されていた ✓ 63歳での決戦「義に敵」勝負強い ✓ 63歳で世に出たことは、同年代の高齢の方には魅力かも 	<p>知られていないからこそイメージをつけやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ほとんど知られていない ✓ マイネーなど 														
<p>千葉氏六党 ストーリーが広がる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉氏六党のキャラクター性 ✓ 6人の特徴が使える ✓ 子ども受けする(ヒーローもの) 	<p>全国への影響力 感度の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 千葉市のルーツが全国に影響を与えている ✓ 千葉市だけでなく全国で活躍している ✓ これまで全国に広まってきた一族は少ないのでは 	<p>市とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 市原が家紋からできている ✓ 人の名前が地名になっている 	<p>妙見信仰</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 北尾星、北七郎、妙見信仰の伝説をマンガに ✓ ロマン 														

●第3回ワークショップ：2026 GOALイメージ精緻化そのためにやるべきことブレスト

実施	<p>具体的な内容（抜粋）</p>
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ● GOALイメージの方向性案共有 <div data-bbox="482 357 913 685"> <p>問題点の構造</p> <p>現状のコンディション 知られていない、そもそも関心もない 悪循環サイクル 千葉県を盛り上げようとする県の姿勢が弱い 市民の関心が低い中、接点も少ないことが、「知られていない」という状況を生み出す</p> <p>千葉氏(一族)自体の問題点 個々のストーリーの中心が弱い 感情移入できない 千葉氏 = ●がない コンCEPT、ターゲットが不明確 千葉氏の情報を一方的に発信しても、受け入れられず、愛着、誇りにつながらない</p> <p>POINT “何を伝えれば” “どう見せれば” 市民は関心を持ってくれるか？ キャラクター(人物像)なのか、ストーリーなのか、千葉氏ではなく(家族)として伝えたいのか など...</p> <p>POINT どんな気持ちで換起できるか？どんな気持ちで愛着・誇りへのキーとなるか？ 絆、全国へ広まっていけること(新着)への期待感など...</p> </div> <div data-bbox="935 357 1363 685"> <p>1 千葉六党から感じる家族愛、ロマン</p> <p>10年後</p> <p>愛着 誇り 千葉一旗に共感・自己顕示欲、この旗に愛着・誇りを感じ、人々を誇らせる</p> <p>情緒的ベネフィット ✓絆 ✓仲間意識、団結 ✓家族愛</p> <p>長期待 ✓親子三代(常重→常胤→千葉六党へ) ✓一族の強い結束 ✓星に集う一族 ✓千葉六党の個性、ロマン</p> </div> ● 既存施策の共有/ 他地域の事例共有
ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ● GOALイメージの方向性 ディスカッション、投票 <div data-bbox="207 782 471 1168"> <p>投票結果一覧</p> <p>千葉六党から感じる家族愛、ロマン 23票</p> <p>全国へ広がっていった歴史への誇り 17票</p> <p>歴史の陰の立役者 17票</p> <p>遅咲きの先駆け、シニアの星 17票</p> <p>総合順位性・差別性が高い</p> </div> <div data-bbox="614 830 1213 1294"> <p>評価が高かったコンCEPT案</p> <div data-bbox="628 888 899 1081"> <p>1 千葉六党から感じる家族愛、ロマン</p> <p>愛着 誇り 千葉一旗に共感・自己顕示欲、この旗に愛着・誇りを感じ、人々を誇らせる</p> <p>情緒的ベネフィット ✓絆 ✓仲間意識、団結 ✓家族愛</p> <p>長期待 ✓親子三代(常重→常胤→千葉六党へ) ✓一族の強い結束 ✓星に集う一族 ✓千葉六党の個性、ロマン</p> </div> <div data-bbox="913 888 1199 1081"> <p>2 全国へ広がっていった歴史への誇り</p> <p>愛着 誇り 千葉一旗に共感・自己顕示欲、この旗に愛着・誇りを感じ、人々を誇らせる</p> <p>情緒的ベネフィット ✓市民としての誇らしさ ✓カッコいい</p> <p>長期待 ✓全国に広がり、愛着した千葉一旗(千葉六党) ✓県内にとどまらず、広がり続ける絆の結合力があった</p> </div> <div data-bbox="628 1101 899 1275"> <p>3 歴史の陰の立役者</p> <p>愛着 誇り 千葉一旗に共感・自己顕示欲、この旗に愛着・誇りを感じ、人々を誇らせる</p> <p>情緒的ベネフィット ✓陰の立役者 ✓新顔を支える千葉氏 ✓安心感</p> <p>長期待 ✓歴史の大きな存在に誇りを感じてほしい存在 ✓千葉氏の存在が、誇りを感じてほしい存在 ✓県民にも伝わり、誇りに繋がる ✓歴史ではないが、400年前一旗</p> </div> <div data-bbox="913 1101 1199 1275"> <p>6 遅咲きの先駆け、シニアの星</p> <p>愛着 誇り 千葉一旗に共感・自己顕示欲、この旗に愛着・誇りを感じ、人々を誇らせる</p> <p>情緒的ベネフィット ✓セカンドキャリア ✓元気で生き生きシニア ✓生き生きできる街</p> <p>長期待 ✓常盤時代に輝く、遅咲きの華士 ✓大層祝儀 ✓63歳から上り始めた70年代の星は名「老年の星」</p> </div> </div> ● アクションプラン 施策案ディスカッション <div data-bbox="207 1371 471 1564"> <p>【他地域事例一覧】</p> <p>● 埼玉県 ● 千葉県 ● 東京都 ● 神奈川県 ● 静岡県 ● 愛知県 ● 岐阜県 ● 長野県 ● 山梨県 ● 富山県 ● 石川県 ● 福井県 ● 滋賀県 ● 京都府 ● 大阪府 ● 兵庫県 ● 奈良県 ● 和歌山県 ● 徳島県 ● 香川県 ● 愛媛県 ● 高知県 ● 福岡県 ● 佐賀県 ● 熊本県 ● 大分県 ● 鹿児島県 ● 沖縄県</p> </div> <div data-bbox="614 1371 1213 1806"> <p>アクションプランの方向性一覧</p> <p>これまでのワークショップで出たアイデアを分類&集約し、下記の6つの方向性に整理</p> <p>千葉氏を「知ってもらう」〜「理解や体験を通して誰かに話してもらうために...</p> <div data-bbox="628 1516 899 1593"> <p>「新規イベント」の立ち上げ</p> </div> <div data-bbox="913 1516 1199 1593"> <p>「既存イベント」への相乗り</p> </div> <div data-bbox="628 1613 899 1690"> <p>「市民を巻き込んだ」活動</p> </div> <div data-bbox="913 1613 1199 1690"> <p>知ってもらうための「コンテンツ制作」</p> </div> <div data-bbox="628 1709 899 1787"> <p>拡散していくための「仕組みづくり」</p> </div> <div data-bbox="913 1709 1199 1787"> <p>「商品・サービス」の開発&販売</p> </div> </div>

3. ワークショップ(全4回)の経過報告

●第4回ワークショップ：2026年に向けた「行動計画案」の検討

実施	具体的な内容（抜粋）
<p>情報共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 方向性&コンセプト案共有 <ul style="list-style-type: none"> ● アクションプラン検討の視点/方向性案の共有
<p>ワークショップ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● アクションプランの方向性ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ● 方向性決定と施策の具体化 <p>4つの方向性で施策を具体化</p>

●ワークショップを通じて抽出した「千葉氏」施策のコンセプト案

月星 千葉氏三代

千葉氏が礎を築き開府900年、そして次代へ。

私たちがこの^{まち}市を築きつづける。 by千葉JC

領域規定

言いたい事

あなたは知っているだろうか、千葉の街をつくり、400年あまりそこを支配し続けた一族がいた事を。
北極星の下に集い、強い結束力を示した一族がいたことを。
そしてその一族は全国各地に所領を持っていた大御家人であった。その一族の名こそ『千葉氏』。

認知低い

1126年、『千葉常重』が千葉に本拠地を移した時から千葉の歴史は始まった。
そして常重の子、一族中興の祖と言われる『千葉常胤』が源頼朝の挙兵に応じ、
壇ノ浦で平家を滅ぼし、鎮西守護人として九州まで下り、さらに東海道大將軍として奥州藤原氏討伐で活躍。
全国岩手県から九州までの所領を獲得して、鎌倉幕府屈指の有力御家人に上り詰めて行った。

千葉から
全国へ広がる
千葉六党の
かつこよさ

源頼朝から「父のようだ」とまで言われるほどの存在。鎌倉幕府設立の陰の立役者であった。

陰の存在

『千葉六党』と言われた常胤の息子たちは、北極星を神に見立てた妙見信仰・月星紋の元に強い結束を固め、
千葉常胤は獲得した日本各地の所領を息子たちに受け継がせ、一族は鎌倉時代に隆盛を極めたという。

絆・団結
星に集う一族
家族愛

一族は戦国時代に、上杉謙信、伊達政宗などと戦い、豊臣秀吉に
滅ぼされるまで400年あまり千葉の地を治めていた。
まさに千葉市の礎を築いた一族。千葉の地から全国に広がっていった千葉氏。
今の千葉市の市章はこの千葉氏の月星紋を基に作られている。
今まで歴史の表舞台に登場してこなかった千葉氏。
常胤の父常重が1126年に千葉を開府してから間もなく900年。

千葉市との
関係づけ

千葉氏は、一族中興の祖と言われる『千葉常胤』が源頼朝からの呼びかけに応じたことから運命が開けた。
時に千葉常胤63歳。

この千葉氏の躍進は、常胤が63歳の時、自らの意志で、謀反を恐れず敢然と立ちあがったことから始まる。
苦難に立ち向かい、自ら立ち上がる勇気を持ち、苦勞をいとわず、目的を完遂し、時代まで動かしていった姿。
これこそ、人生100年時代と言われる中、模範とすべき先駆けであり、中高年の活躍を温かく支援する千葉市に
ふさわしい。


ターゲットイング
コンセプト

4. 千葉氏の年表


年 表	
1118年 (元永元)	ちば つねたね 千葉常胤生まれる。(父・常重、母・平政幹の娘) たいらのきよむね 平清盛生まれる。
1126年 (大治元)	ちば つねしげ つねたね 千葉常重、常胤、本拠地を大椎から千葉へ移し、館を構える。
1135年 (長承4)	つねたね 常胤、家督を相続する。
1146年 (久安2)	つねたね 常胤、父の代で失った相馬郡*の支配権を取り戻す。 *現在の我孫子市、柏市、茨城県取手市付近
1156年 (保元元)	つねたね みなもとのよひち 常胤、源義朝に従い、保元の乱に参戦。
1160年 (永暦元)	つねたね 常胤、平治の乱で源氏が敗れたのを機に、相馬郡の支配権を失う。 よひち 頼朝、伊豆に流される。
1167年 (仁安2)	たいらのきよむね 平清盛が太政大臣となる。
1180年 (治承4)	みなもとのよひち 源頼朝挙兵するも、石橋山の戦いで敗れ、房総半島へ逃れる。つねたね よひち 常胤、頼朝に応じる。 つねたね みなもとのよひち 鎌倉入府。富士川の戦い。常胤、源頼朝の上洛を止める。
1183年 (寿永2)	かずさ ひろつね よひち 上総広常、頼朝に滅ぼされる。
1184年 (元暦元)	つねたね みなもとののりゆり 常胤、平氏追討のため源範頼に従い、西国、九州に出発する。
1185年 (元暦2)	壇ノ浦の戦い、平氏滅亡。
1187年 (文治3)	治安維持のため京都に派遣される。
1189年 (文治5)	つねたね 常胤、東海道大將軍として、奥州合戦に参加する(奥州藤原氏滅亡)。
1190年 (建久元)	つねたね よひち 常胤、頼朝の上洛の後陣を任される。
1199年 (正治元)	みなもとのよひち 源頼朝死去。
1201年 (建仁元)	つねたね 常胤、84歳で死去。
1221年 (承久3)	ご ちば しょうこう 承久の乱(後鳥羽上皇の討幕失敗)。つねたね 胤綱、一族を率いて出陣。
1274年 (文永11)	よひち 文永の役。頼朝が九州の地で戦死。宗胤が肥前に留まり、九州千葉氏の祖となる。
1331年 (元弘元)	ご たい ご てんのう もりよし しんのう くすのき まさしげ 後醍醐天皇の討幕計画失敗。護良親王、楠木正成などが挙兵。
1333年 (元弘3)	さだたね、 にったよし 鎌倉幕府滅ぶ。貞胤、新田義貞と呼応し、鎌倉を攻める。
1334年 (建武元)	建武の新政始まる。
1336年 (建武3)	たねさだ あしかが たかうじ 胤貞、足利尊氏を助け九州から今日に攻めのぼる。さだたね たかうじ 貞胤、尊氏に降伏。
1338年 (延元3・暦応元)	あしかが たかうじ 足利尊氏が征夷大將軍となる。
1455年 (康正元)	まくり やすたね たねなお 馬加康胤らが千葉城を攻め、胤直は自害。 たねなお さねたね これたね 胤直の甥、実胤、自胤は武蔵に逃れ武蔵千葉氏の祖となる。
1467年 (応仁元)	応仁の乱、戦国時代に突入するきっかけとなる。
1484年 (文明16)	このころ、本佐倉城に本拠を移す。
1517年 (永正14)	かずさ たけだし 上総武田氏が千葉氏の重臣原氏の拠点であった小弓城を攻め落とす。
1518年 (永正15)	あしかが よしあき 足利義明、小弓城に入り小弓公方を称する。
1538年 (天文7)	あしかが よしあき ほうじょうしづな 第一次国府台合戦。足利義明、北条氏綱に討たれる。原氏、小弓城を奪還。
1563年 (永祿6)	第二次国府台合戦
1566年 (永祿9)	たねとみ うらすきけんしん 胤富、下総に攻め込んだ上杉謙信を退ける。
1573年 (元龜4)	あしかが よしあき 足利義昭追放、室町幕府滅ぶ。
1585年 (天正13)	とよとみ ひてよし 豊臣秀吉が関白に就任する。
1589年 (天正17)	ほうじょうしづな なねしげ 北条氏政の子直重が千葉氏の家督を継ぐ。
1590年 (天正18)	とよとみ ひてよし 豊臣秀吉の小田原攻めにより千葉惣領家は滅ぶ。

第1回・第2回千葉氏サミット参加自治体の概要をご紹介します。


千葉市の市章と千葉氏



月星紋



九曜紋



千葉市の市章

千葉市の市章は千葉氏の月星の紋章からとったものです。
 千葉氏の月星・九曜星の両方が使われていますが、この月星に千葉の「千」を入れて、大正10(1921)年に、市となったことを記念して市章としました。



一関市 -いちのせきし- (岩手県)

● まちの概要

一関市は、岩手県の最南端、東北のほぼ中央にあり、仙台市と盛岡市の中間地点に位置しています。人口は約119,000人、面積1,256.42km²で古くから交通の要衝として栄え、岩手県南、宮城県北エリアの中核としての役割を持ってきました。

また、宮城、秋田の両県に隣接し、市内には3県にまたがる栗駒山、猊鼻溪や巖美溪の名勝地、一関温泉郷などの観光地があり、世界遺産登録のまち「平泉」や三陸方面への観光拠点です。

● 千葉氏とのゆかり

葛西時代、その領内いたるところにおいて勢威を誇っていた千葉一族の始祖は、千葉介頼胤と伝えられています。長坂唐梅館城主千葉氏も、頼胤を始祖としております。しかし頼胤、その人について伝わっていることは様々で、何れが真実を伝えているものか知る由もありません。長坂千葉系図によると、頼胤は千葉介常胤の七男で、平泉藤原氏滅亡後、葛西氏のじきじきの家来として伊沢百岡と唐梅館の二城を源頼朝から与えられ、奥州に下向し建久2年(1191年)、その子良胤とともに百岡から唐梅館に移り住みました。以来、約400年間に渡り栄えたが天正18年(1590年)葛西氏滅亡とともに落ちぶれていったと言われております。居城唐梅館跡は、東山町長坂の町並の北方、唐梅館山の頂にあります。本丸をめぐる西方の土壇上には初代城主、千葉介頼胤の供養碑が建てられています。



唐梅館城本丸口

涌谷町 -わくやちょう- (宮城県)

● まちの概要

宮城県涌谷町は、宮城県の北東部に位置し、面積は82.16平方kmで、仙台駅までの所要時間は1時間程度です。涌谷町は、天平21年(749年)に我が国において初めて金を産出した地となっています。黄金900両(約13kg)を献上し、奈良東大寺の盧舎那仏の建立へと大きく貢献しました。時の天皇であった聖武天皇は、このことを喜び、年号を「天平感宝」に改めるほどのドラマが涌谷町域を舞台に起こりました。この時、万葉の歌人・大伴家持は、聖武天皇が全国に出した詔にに応じて、「天皇の御代栄むと東なる陸奥山に金花咲く」と万葉集に残る歌を読みました。このことから、万葉集に登場する地名の中で北限の町として紹介されています。

● 千葉氏とのゆかり

涌谷町は、江戸時代にこの地域を治めた伊達家一門「涌合伊達(亘理)」氏の居館「涌谷要害」があった場所です。現在の市街地はこの涌谷要害を中心に小城下町を形成しており、往時の名残を所々に見ることができます。

涌谷伊達氏の遠祖は、千葉介常胤の三男である武石三郎胤盛であり、1189(文治5)年、胤盛は父常胤とともに奥州合戦に従軍して功績をあげ、源頼朝から現在の福島県北部～宮城県南部の「宇多・伊具・亘理」3郡を拝受しました。

その後、亘理郡へ移住、「亘理氏」と名乗るようになったと言われております。そして、1591(天正19)年、亘理元宗・重宗父子が「亘理」から「涌谷」へ移転、涌谷の町づくりが始められました。



光明院

相馬市 -そうまし- (福島県)

● まちの概要

相馬市は、福島県の東北端にあって、西に阿武隈山地が連なり、東は太平洋が広がります。江戸時代初期の慶長16年(1611)に相馬氏の本拠が中村城に移され、現在の相馬市の基礎となる近世城下町が形作られました。江戸時代後期になると、東北諸藩を襲った天明・天保の大飢饉により相馬中村藩も大きな被害を受けましたが、二宮尊徳の農業復興施策である報徳仕法を推進し、藩財政を回復させました。その時の二宮尊徳の教えは現在も市民に根付いています。一千有余年の歴史を誇る国指定重要無形民俗文化財相馬野馬追は見どころの一つです。

● 千葉氏とのゆかり

相馬氏は、系図では平将門を祖とし、桓武平氏良将を称し、系図によると将門は下総国相馬郡(茨城県北相馬郡)を領し、相馬小次郎と称して相馬氏の祖となったといわれています。

将門から10代後の師国には嫡子がいなかったため、千葉常胤の次男師常が養子となって相馬氏を継承したと伝わっています。文治5年(1189)の奥州藤原氏追討で相馬師常は実父・千葉常胤とともに功をあげ、源頼朝から多くの所領を授けられた。相馬師常も陸奥国行方郡(現在の南相馬市)を与えられ、本領の下総国相馬郡とともに支配下においた。師常から6代目の重胤は一族内の所領をめぐる対立などから、元亨3年(1323)に一族郎党を従え、本領であった下総国相馬郡から陸奥国行方郡に移住したと伝えられている。慶長16年(1611)、相馬利胤は行方郡小高から現在の相馬市中村の地に居城を移し、政治経済の中心地として整備、北辺に対する強化を図りました。現在の相馬市の基礎となる城下町が形作られることとなりました。



相馬中村神社

南相馬市 -みなみそうまし- (福島県)

● まちの概要

南相馬市は、福島県太平洋沿岸南部のいわき市と宮城県仙台市のほぼ中間に位置し、面積は398.5平方km、緑深い阿武隈の山すそに広がる豊かな平野、その東に面した太平洋のなごさ、海洋性の気候にはぐくまれた豊かな自然に囲まれています。平成18年1月1日、旧小高町・旧鹿島町・旧原町市の2町1市が合併し南相馬市となりました。

毎年7月下旬、南相馬市を中心に近隣市町村を挙げて開催される相馬野馬追は、一千有余年の歴史がある国指定重要無形民俗文化財となっています。相馬野馬追のメイン会場となる雲雀ヶ原祭場地は原町区(旧原町市)に、野馬懸(のまかけ)の会場となる相馬小高神社は小高区(旧小高町)にあります。

● 千葉氏とのゆかり

相馬氏は平将門が遠祖とも伝わっています。始祖は千葉常胤の二男相馬師常で、下総国相馬郡を領したことから相馬を名乗りました。師常は父常胤とともに奥州合戦で戦功をあげ、父常胤から本領のほかに陸奥国行方郡(なめかたぐん：現在の南相馬市・飯館村)を授けられました。

師常から3代後の胤村の子師胤は行方郡に多くの所領を譲り受け、その子重胤が元亨年間(1321～1323)に一族の岡田氏・泉氏らとともに行方郡に下向して、奥州相馬氏の祖となりました。以後、相馬氏は小高城を拠点に所領を拡大し、江戸時代には現在の相馬市中村に城を移して中村藩主となりました。



相馬野馬追

成田市 -なりたし- (千葉県)

● まちの概要

成田市は、千葉県の北部中央に位置する中核都市となっています。市の西側には根木名川、東側には大須賀川が流れ、それらを取り囲むように広大な水田地帯や肥沃な畑地帯が広がります。成田市は、霊場として名高い成田山新勝寺の門前町として古くから賑わってきました。歴史的建造物が残り江戸情緒あふれる成田山の表参道には、多数の土産物屋や飲食店が軒を並べ、国内外の観光客に親しまれています。

成田山新勝寺の他にも、江戸時代の義民・木内惣五郎(佐倉宗吾)を祀った宗吾霊堂など、市内には数多くの寺社があります。

● 千葉氏とのゆかり

成田市北東部に位置する大須賀地域、尾羽川流域、荒海川流域は、千葉常胤の子息である胤信や胤通が地頭として入府して以降、それぞれ大須賀氏、国分氏を名乗って勢力を張り、戦国時代末期に徳川家康が関東に入府するまで一族の所領として保守されてきました。とりわけ、鎌倉時代、宝治合戦(1247年)の後、大須賀氏惣領としての地位を確立した胤信の孫胤氏は、将軍の近習として活躍し、大須賀氏興隆の基礎を固めました。戦国時代には当地に多くの城が築されましたが、大須賀氏の居城とされる松子城跡、大須賀氏の分家の居城とされる助崎城跡の周囲には、「内宿」「新宿」などの小字名があり、戦国時代終わり頃には城下町が形成されていたことがわかります。



助崎城跡の妙見像

佐倉市 -さくらし- (千葉県)

● まちの概要

佐倉市は、北総台地に所在し、北に印旛沼があります。佐倉では幾層にも重なる歴史文化を間近に見ることができます。古くは縄文時代の環状盛土遺構を目にすることが出来る井野長割遺跡があり、千葉一族の盛衰を肌を感じる臼井城跡・本佐倉城跡があります。江戸時代には、江戸を支える町として栄え、佐倉城跡・武家屋敷・佐倉順天堂記念館・旧堀田邸とその庭園などが残された町並みは、「世界から一番近い江戸」をキーワードに、当時の人々の息吹を伝える日本遺産として、「北総四都市江戸行ー江戸を感じる北総の町並み」の一つになっています。

● 千葉氏とのゆかり

佐倉市域は、千葉氏と同族である上総介一族の勢力が元来強かった地域ですが、鎌倉幕府を創立した源頼朝が、上総介一族を弾圧し、千葉常胤を登用したことから、千葉氏の勢力があらたに広がっていきます。戦国時代の初め、千葉氏は内紛によって分裂し、その戦いに勝利した一派は、本拠地を千葉から佐倉へ変えました。戦国時代に佐倉地域は、太田道灌や上杉謙信、さらには里見氏による武力侵攻を受けますが、千葉氏はその都度危機を乗り越えます。しかし天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原攻めによって、ついに千葉氏は没落します。海隣寺や勝胤寺に残される千葉氏供養塔群は、千葉氏の栄華の痕跡となっています。



勝胤寺中世石塔群

酒々井町 -しすいまち- (千葉県)

● まちの概要

酒々井町の町名はそのむかし孝行息子が汲んだ井戸水が酒になったことが由来とされています。町の面積は約19km²、千葉県の北部、都心から50kmの圏内にあって、北西には印旛沼、東南には北総台地を配し、緑豊かな自然環境に囲まれています。歴史的には3万4千年前の日本最大級の環状集落跡をはじめ国史跡の千葉氏の居城跡、徳川幕府直轄の野馬会所、成田山や芝山参詣客の宿場町の名残などが町中に残ります。明治22年に町村制が施行され、酒々井町が誕生した以後、自治体合併を経ず一番古い町として現在に至っています。

● 千葉氏とのゆかり

享徳三(1454)年、鎌倉公方と関東管領の争いは千葉氏を巻き込み、千葉氏も両派に分かれ戦いました。混乱のなか千葉介胤直・胤宣父子は自刃し、長禄三(1459)年に一族の岩橋輔胤が千葉宗家を継ぐこととなります。千葉輔胤は本拠地を千葉から現在の酒々井町に変えます。文明年間(1469～1486)の終わり頃には本佐倉城を築城、その後、天正十八(1590)年に豊臣秀吉の小田原攻めにより千葉氏が滅ぶまでの100余年の間、酒々井町は千葉氏九代の居城として下総の政治・文化の中心地となりました。現在、千葉氏の城跡は関東の戦国時代を代表する城郭として国指定史跡となっています。



国史跡本佐倉城跡

多古町 -たこまち- (千葉県)

● まちの概要

多古町は、千葉県の北総台地の東側に位置し、面積は72.80km²と県内町村の中では2番目の広さを誇る人口約1万5千人の町です。栗山川のあじさいが鮮やかに色づく初夏、「ふるさと多古町あじさい祭り」が盛大に開催され、江戸時代さながらの衣装を身にまとった町民が多古米を大盤振舞いするなど、多くの観光客が押し寄せ賑わいをみせます。江戸時代から続く夏の風物詩「多古祇園祭」は、お囃子や威勢のいい掛け声とともに山車が引き回され、山車の上では鮮やかな舞が彩りを添えています。自然と文化、歴史に恵まれた町となっています。

● 千葉氏とのゆかり

千葉氏一族の勢力が下総一帯に及んでいた中世、多古は千葉氏の荘園「千田荘」の中心地でした。千葉氏の勢力が全国に及び隆盛を極めると一族間では争いが度々起き、「千田荘」もその戦いの舞台でした。南北朝期の千田荘動乱(1335～1341)では、土橋城周辺を中心に、並木城や志摩城が戦場となりました。その後、室町時代中期の享徳の乱では、千田荘が千葉氏宗家終焉の地となりました。千葉家当主胤直は同族の原胤房・馬加康胤と戦うこととなります。康正元年(1455)、胤直は原胤房に千葉城を急襲されて、千田荘に逃れて再起を図りましたが、両軍の攻撃に多古城、志摩城とも攻め落とされました。胤直は土橋城の一角にある東禅寺に逃げましたが、すぐさま敵勢に包囲され一族郎党とともに自刃し果てました。東禅寺境内西側の墓地にある五輪塔7基は、胤直ほか一族の墓と伝わり、現在でも地元の人たちに懇ろに供養されています。



千葉胤直ほか眷属の墓

東庄町 -とうのしょうまち- (千葉県)

● まちの概要

東庄町は、千葉県北東部、東京から約80km圏、成田から約30km圏の位置にあり、銚子市や香取市、旭市と面しています。面積は、約46平方km、温暖な気候で、平均気温は約16度、冬の間は東京より2~3度暖かく、夏は逆に涼しい町となっています。北西には八溝山地の末端にある筑波山を臨み、東大社、東庄県民の森では、町の木「オオムラサキ」が色鮮やかに咲きほこり、訪れた人々の目を楽しませます。

● 千葉氏とのゆかり

千葉常胤の6男胤頼は幼い頃から武術に励み、やがて京に上り鳥羽上皇の第3皇女・上西門院に仕え和歌を学び、文覚上人に師事して文学、歴史を学ぶほか、都の政治にも関心を向けました。源頼朝の挙兵にはいち早く下総に戻り、常胤に京の政治情勢を報告し軍事面でも才能をあらわしました。

常胤は、守護に命ぜられたのを機に6人の子息にそれぞれ領地を与え、胤頼には東荘33郷(今の東庄町とその近隣)が与えられ東氏を名乗りました。



妙見菩薩立像

郡上市 -ぐじょうし- (岐阜県)

● まちの概要

郡上市は、郡上郡の八幡町・大和町・白鳥町・高鷲村・美並村・明宝村・和良村の7町村が合併して2004(平成16)年に誕生しました。日本列島そして岐阜県のほぼ中央部に位置し、面積約1,030平方kmに人口約4万2千人が住む山間の市で、市の中央を北から南に流れる長良川をはじめ24本の一級河川があり、雄大な自然と美しく豊かな水に恵まれています。奥美濃の小京都と言われる郡上八幡には、400年を超える歴史を持ち日本三大盆踊りの一つに数えられる「郡上おどり」があり、お盆の4日間は翌朝まで踊り明かす徹夜おどりで賑わいます。

● 千葉氏とのゆかり

千葉常胤の息子「千葉六党」の六男・胤頼は、下総国東庄(千葉県東庄町)を領し、東氏を名乗りました。胤頼の孫にあたる胤行は、承久の乱の功績により美濃国郡上郡山田庄(岐阜県郡上市)を与えられたとされ、東氏は下総国東庄と美濃国郡上郡の二つに分かれました。

郡上東氏は代々和歌に優れており、中でも室町時代の9代目・東常縁は、当代きっての歌学者で、古今和歌集の解釈を秘伝する「古今伝授」の形式を整え、「古今伝授の祖」といわれました。1559(永禄2)年、郡上東氏は一門の遠藤氏に城を追われ、三百余年の歴史が幕を下ろしました。現在、郡上東氏の居館跡「東氏館跡庭園」(国名勝)一帯は、東氏記念館、和歌文学館などを配した「古今伝授の里フィールドミュージアム」として整備され、和歌・短歌のまちづくりの拠点となっています。



東常縁像 (乗性寺所蔵)

小城市 - おぎし - (佐賀県)

● まちの概要

小城市は、佐賀県のほぼ中央部にあり県庁所在地・佐賀市に隣り合っています。福岡市へ70キロ、長崎市へは100キロの距離です。地勢的には、北部に天山山系がそびえ、中央部には肥沃な佐賀平野が広がります。南部にはクリーク地帯が広がり、日本一の干潟・有明海があります。天山山系に源を発する祇園川・晴気川・牛津川は平野部を潤し、嘉瀬川および六角川に合流し、有明海へと流れています。気候は、夏は高温多湿でやや蒸し暑く、冬は乾燥した北西の季節風(天山おろし)が強いのが特徴で、天山県立自然公園、ムツゴロウ・シオマネキ保護区に代表される貴重で豊かな自然資源があります。小城市の面積は、95.81平方kmで県土の3.93%です。

● 千葉氏とのゆかり

鎌倉時代後期に下向し、小城を拠点とした千葉氏は室町、戦国時代に肥前国の中枢部に勢力を及ぼしました。朝鮮国で15世紀に著された『海東諸国紀』によると当時小城には民居一千二百余戸、正兵五百を擁するなど千葉氏の拠点として北部九州を代表する都市であったことがわかります。現在も市内には千葉氏の城館跡、寺社、仏像、歴史資料が伝わり、繁栄した千葉氏の歴史・文化を知ることができます。



千葉城跡

統一テーマ「知ろう、愛そう、つくろう、郷土千葉」

① 記念行事

- ・ 記念式典
昭和51年6月1日午前10時～午前11時半
- ・ 市民祝賀パレード（武者行列）
（郷土館～県庁～栄町通り～市民会館～千葉駅～中央公園の約3km）
昭和51年6月1日午後2時～午後3時半
- ・ 炬火リレー
昭和51年6月1日午前9時半～正午
炬火（5月31日大椎城で採火）を千葉神社から亥鼻山まで21名のリレー隊によって運ぶ
- ・ 千葉笑い
昭和51年6月1日、6月7日
- ・ 親子三代夏祭り
昭和51年8月22日
- ・ サンスポ千葉マラソン大会
昭和51年11月3日 等

② 記念事業

- ・ 記念植樹
昭和51年6月1日午前11時35分～11時45分
- ・ タイムカプセル（50年後の市民へ）
- ・ 記念碑（月星紋、常胤のレリーフ）
昭和52年6月1日完成
- ・ 記念音頭（親子三代千葉おどり）
昭和52年1月14日市民応募作品審査のうえ入選・佳作を決定
- ・ 記録映画

③ PRグッズ

- ・ 立看板
- ・ ポスター
- ・ バッジ
- ・ ワッペン
- ・ ステッカー
- ・ メダル
- ・ シンボルマーク
- ・ のぼり旗 等

④ その他

- ・ 「千葉市の散歩道」の設定
市政だより4月10日号で募集
- ・ 「新千葉八景」の選定
①泉自然公園②亥鼻山周辺③千葉公園④千葉港⑤稲毛松林と浅間神社
⑥国鉄千葉駅前通り⑦千葉寺⑧海浜ニュータウン）市政だより4月10日号で募集
- ・ 記念作文（小・中学生）、記念論文（高・大・一般）の募集
市政だより4月10日号で募集 6月1日記念式典で最優秀作品は、本人朗読発表
- ・ 6月1日市民の日制定の提言



千葉市
CHIBA CITY